

事業報告書及びその付属明細書

2020年度

自 2020年4月1日 至 2021年3月31日

公益社団法人アジア協会アジア友の会

アジア協会アジア友の会（JAFS）のめざすもの

I. 基本理念 (Vision)

文化の多様性を尊重し、誰もが生まれてきて良かったと思える地球社会の創造をめざし、以って各自の生命（いのち）の価値を高める。

II. 基本課題 (Mission)

1. アジア及び世界の開発途上地域の困っている人々を助ける。
(特に、基本的生存条件が確保できない人々への生活支援を最優先する)
2. 国際社会に必要なボランティア活動の育成推進

III. 基本目標 (Goal)

アジアの善意を結集して地球社会奉仕活動を推進し、以って人間として各自に与えられた生命（いのち）の役割を果たす。

IV. 基本活動 (Program offered)

1. 国際協力支援事業の推進
2. 国際人的ネットワーク網の確立
3. 日本における良き社会づくりの推進

事業報告			1
I. 開発支援事業			
A. 水事業	1. 井戸・飲料水供給		9
B. 子ども事業	1. 初等教育普及・向上		11
	2. 教育設備・環境整備		
	3. HIV/AIDS 子ども感染予防		12
	4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援		
C. 貧困対策事業	1. マイクロクレジット支援・能力開発		14
	2. 保健衛生指導・医療		
	3. 提携 NGO 運営助成		15
D. 環境事業	1. 植林・水源涵養林養育		16
	2. 環境改善・国際グリーンスカウト		
	3. 再生可能エネルギー資源活用・普及		17
E. サイクル・エイド事業	1. サイクル・エイド		18
F. ワークキャンプ・視察	1. ワークキャンプ		
	2. 海外プロジェクト視察		19
II. 国際交流事業			
A. 人材交流・育成事業	1. 奨学金支援		21
	2. 海外ボランティア研修制度		
	3. 人材育成事業	(1) アジア・ユースサミット (AYS)	
B. ネットワーク推進事業	1. 国際会議	(1) アジア国際ネットワークセミナー	22
		(2) 国際ネットワーク機能強化事業	
		(3) アジア・フレンドシップ夢基金	
	2. 国際体験交流 (スタディツアー等)		
資料：海外提携団体 AFS ネットワーク			23
III. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業			
A. 災害等罹災者支援事業	1. 災害等罹災者支援事業	(1) ネパール中部地震災害復興支援	27
		(2) 東日本大震災災害復興支援	
		(3) 新型コロナウイルス感染症対策支援	
		(4) 九州豪雨被災者支援	
		(3) フィリピン台風ユリシーズ被災者支援	
IV. 普及啓発事業			
A. 地域広報活動事業	1. 本部活動	(1) JAFS チャリティプログラム	29
		(2) 国際理解教育講座	
		(3) 国際ボランティア啓発活動	
		(4) アジア文化理解講座	
		(5) 研修生・実習生受入プログラム	
		(6) 法人関連プログラム	
		(7) JAFS 社員クラブ	
		(8) JAFS アジア市民大学	
		(9) コロナ緊急支援留学生&支援者交流会	
		(10) JAFS SDGs セミナー	
		(11) JAFS グローバルコミュニティ・カレッジ	
		(12) 関連プログラム/その他団体協力	
	2. 地区活動	(1) 会員拡大・地区活動推進委員会	32
		(2) 地区世話人一覧	
		(3) 第1エリア	
		(4) 第2エリア	
		(5) 第3エリア	
3. 広報	(6) 第4エリア	33	
	(7) 第5エリア		
	(8) 第6エリア		
4. プロジェクト支援	(9) 第7エリア	34	
	(10) 第8エリア		
	(11) 第9、10エリア		
5. 関連市民活動	(1) アジアネット	35	
	(2) ホームページ/フェイスブック		
B. 環境保全・環境教育(国際グリーンスカウト運動)	(1) 各ファミリーグループ・支援会	36	
	(2) 日本を良くする会		
	(3) 各部会活動		
V. 運営管理			
A. 社員総会			43
B. 役員一覧			
C. 理事会			45
D. 常置委員会			
事業報告の付属明細書			47

2020年度 事業報告

2020年度は、年度活動開始早々コロナ禍による非常事態宣言が発せられ、各種の社会生活や活動が制限される下で、市民団体である本会の活動・事業を進める難しさがあつた。新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)拡大を防ぎながら、事業計画に基づく活動・事業の推進は国内活動のみならず、海外においても多くの制限があり、困難を背負いながらも、それなりに必要な活動は最小限完遂出来たと考えている。

本会活動40周年を節目に、新たに提案された様々な施策が検討、設定されたが、その具体的な実行・実現は、予想外の事態のもとで足踏み状態にならざるを得なかつた。しかし、かかる状況にも関わらず、理事会傘下の各担当委員会や担当理事、更には、各世話人の方々、会員各位の努力により、それなりの活動は出来たと評価している。幸いにも、多くの方々の共感と理解と協力が得られたことである。

特に、コロナの影響により多発した、国内外の生活困窮者へ対する支援が最優先事項として実施することが出来た。これはコロナ支援募金に対する皆様の理解と協力のお陰である。海外支援活動は、現地の事態に情勢に応じて絶対必要不可欠なものは実施、その他は中止又は延期することにした。

運営面では国内活動の制限や在宅勤務体制導入による安全対策を講じながら、理事会傘下の各運営委員会が、それなりの工夫と努力により着実に実施されたことは感謝したい。以下活動概略を事業別に報告させていただく。

I. 「開発支援事業」に関しては、各国のコロナ感染予防のためのロックダウン対応などが大きく影響し、停滞した活動もあつたが、「開発支援から取り残された人たちが抱える課題の解決を進めると共に、基本支援事業、水、教育、貧困対策、環境の4項目(詳細は下記)の実施により、現地地域の自立支援へ導入活動を行った。

尚、大阪府との提携事業であつたサイクル・エイド事業を16年間維持継続してきたが、諸般の事情により今年度を以て、終了する事となつた。

II. 「国際交流事業」に関しては、コロナ禍によりアジア地域間における活動の取り組みに対する相互連帯感の強化、励まし合いの重要性を認識することが出来た。それによって、国際ネットワークの重要性を確認することが出来た。又、スリランカで実施予定であつた第30回アジア国際ネットワークセミナーは、会場をPC上に変え、オンラインにて一同が会し、現地NGOスタッフとの共通の課題認識とAFSネットワークの果たす役割を確認することができた。

III. 「災害等罹災者に対する生活支援事業」に関しては、内外の新型コロナウイルス感染症の影響により生活困窮者に対する支援の実施である。特に海外の脆弱な状況下におかれた人々の生活及び命を守るための支援活動を実施すると同時に国内の外国人留学生に対する支援を実施した。ネパール地震の被災地復興支援事業を大規模揚水システム設置及び農業基盤づくり2年次事業を終了させることが出来た。また、新たな支援として、コロナ禍中7月に九州を襲つた豪雨による水害被災地への支援活動、11月に発生したフィリピンの台風により被災した被害者への支援活動を行った。東日本大震災の南三陸町への支援はコロナ感染状況を鑑み実施を中止した。

IV. 「普及啓発事業」においては、日本国内のコロナウイルス感染状況及び緊急事態発令により、多くの活動を制限せざるを得なかつた。しかしながら、広報委員会や会員活動に関する委員会の工夫や努力により、本会の広報と支援事業に関する普及啓発が実施できた。特に大きな動きとしてホームページのリニューアルを行った。次年度に調整作業を引き続き実施する必要があるが、HP上でのクレジット決済、クラウドファンディング実施が定期的に行なえるようになった。新宮市で37回目の実施予定であつた「土と水と緑の学校」は、コロナの状況を考慮し、実施を中止した。一方、インターンシップ希望者が増え、オンラインオフライン両方の方法での活動により国際支援への理解を促進できた。その他、内外の関連機関との連携がコロナ禍により一層深まり、NGO/NPO活動の社会への広がりに貢献することができた。

「運営管理」に関しては社員総会をはじめとして書面決済を中心とした方式の導入、理事会もオンライン参加を導入し、安全危機管理を行いながらガバナンス・コンプライアンスルールを維持し、組織基盤の強化と経営の透明化を果たした。

以下活動詳細について報告する。

I. 公益目的事業1 開発支援事業

A. 『水事業』 - 安全な飲料水供給をめざした井戸建設支援事業 -

1. 井戸・飲料水供給

2020年度は、アジア5ヶ国(インド(6)、カンボジア(7)、スリランカ(9)、ネパール(3)、フィリピン(8))の農村32ヶ所に37基の井戸又はパイプラインを完成することができ、水くみのアクセスに長時間の労働を強いられていた人々の生活環境やコロナ感染などの予防のための衛生環境の改善をすることができた。コロナの影響により、建設の途中となった国・地域が多発した状況である。

B. 『子ども事業』 - 貧困層の子どもたちの生活向上を目指した各種支援事業 -

1. 初等教育普及・向上事業(インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピン)

教育里親制度(就学資金の提供)により、上記5ヶ国の就学生423名に教育支援を行った。学校の休校が多発したが、教育環境の維持が自宅学習への充実にもつながるため例年同様の支援を実施した。

2. 教育設備・環境

- ネパール:学校校舎1棟の建設を実施する予定であったが、コロナにより現地の対応が不可能となり、実施を延期することとした。
- バングラデシュ:学校のトイレ再建の支援を予定していたが、コロナの関係で建設を延期した。
- インド:インド、カルナータカ州ビジャヤプーラ県及びマハラシュトラ州ガッチロリ県の日印友好学園校のコロナ禍における学校の運営や子どもたちへの教材の支援を行った。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

- インド:タミルナードゥ州のディンディガル、ナマカル2県のHIV/AIDSの子どもおよび、家族2世帯の支援を行った。

4. 栄養改善とストリートおよび、スラムの子どもたちの保護・教育支援

(1) 栄養改善(ネパール)

タライ平野の低所得地域の小学校の約210名の生徒に、ロックダウン解除時の期間月に5回給食支援を実施。子どもたちの栄養状況の改善を行った。栄養士育成の対象者2名の人選をおこなった。各校で実施している栄養指導の実施はコロナの影響により実施ができなかった。

(2) ストリートおよび、スラムの子どもたち支援(インド、フィリピン)

インド:マハラシュトラ州ナグプール県のスラムの子どもたちを対象に、文具や教材の支援を実施。放課後の教育指導なども行った。

フィリピン:マニラのストリートやスラム地区に暮らす子どもたちへの教育支援をおこなうとともに生活習慣・衛生環境改善等の啓発プログラムを実施した。

C. 『貧困対策事業』 - 自助自立を目指して、収入・雇用を生み出す諸プログラムの推進及び指導 -

1. 小規模産業育成・職業訓練

- インド:マハラシュトラ州アムラワティ県の農村の女性グループを対象にした養鶏事業は、コロナの影響により実施出来なかった。
- カンボジア:村の小規模零細事業への資金提供により農村世帯の所得向上を目指したが、コロナの影響により新規追加の実施は出来ていない。
- ネパール:シンドゥパルチョーク郡の地震被災地の農業振興の継続的な活動に向けて、人材育成を行うために村内の若者から農業専門高等学校への奨学生支援をおこなった。
- フィリピン:アンティーク州パンダン町の障がい者への通院や福祉機器の運搬協力、救援物資の配布や卒業した障がい児童の自立を目指し、再生プラスチックエコブリック製造機材を支援した。

- フィリピン:ソルソゴン州の農漁村の所得向上をめざし、マングローブ植樹地の整備をおこない、森づくりを継続した。農村地域では、若い世代の生計につながることを目標に有機肥料等の研修をおこなった。

2. 保健衛生指導・医療

- インド:マハラシュトラ州ムスカ村の病院運営の運営支援を実施。コロナ禍における地域医療と感染防止啓発を実施した。週 1 回ではあるが医者による診察と、看護師が常駐し手当が出来る体制となった。
- ネパール:シンドゥパルチョーク郡、カトマンズ郡、ノールパラシ郡の農村地域の女性の健康維持のために講習、生理用ナプキンの配布を行っているがコロナにより接触が難しく実施出来なかった。今後、現地でナプキンを制作していくためのミシン機器支援のみ実施した。

3. 提携 NGO 運営助成

本会の現地提携団体の運営及びマネージメント強化の為に、インド(RUDYA、HDSI)、カンボジア(KAFS)、スリランカ(SARVODAYA)の運営支援と活動強化を行った。

D. 『環境事業』 - 自然環境保全、及び再生に必要な諸活動の支援 -

1. 植林・水源涵養林養育支援

- インドネシア: 北スラベシ州タリセ島にてマンゴーやジャックフルーツなどの果樹の植林を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。
- インドネシア・アチェ:2004 年のスマトラ沖大地震による津波被害の風化を防ぐために、防潮林マングローブ植林と地元の小・中学校で海の環境保全や限られた資源を守るための環境教育を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため次年度に延期した。(2020 年度公益信託地球環境基金助成事業)
- ネパール: 地域の森を守ると共に新たな憩いの場の創造のため事業として、コミュニティーフォレストの植林を 1 ヶ村に 183 本を植樹した。また、学校の緑化活動のため 3 校に 150 本の植樹を行った。(令和元年度「緑の募金」公募事業)
- バングラデシュ:学校にての環境教育と緑化活動を目的に、4 県 4 校で 1,014 人の参加者に学校及び周辺にマンゴー、ポプラ等 2,028 本の苗木を植林した。(2020 年度「連合・愛のキャンパ」中央助成事業)
- フィリピン:アンティーク州パンダン町の水源に水源の森保全のための苗木づくりを実施した。
- フィリピン:ヌエバエシハ州サンタローサ町に植えた竹のメンテナンスを引き続きおこなった。

2. 環境改善・市民による環境保全活動(国際グリーンスカウト運動)

1986 年に発足した本会提唱の環境保全市民運動(通称、グリーンスカウト運動)は、現地提携団体を中心に様々な地球環境保全に関する啓発活動が行われている。

- インド:マハラシュトラ州にて継続的に実施されているグリーンスカウト運動の啓発活動を実施した。
- ネパール:各地で活動するグリーンスカウト運動と小学生の環境セミナーがコロナの影響で実施できず、3 校の児童に対し環境に対する意識向上、環境保全活動の推進を目的として教本の配布を行った。(りそなアジア・オセアニア財団環境プロジェクト助成事業)
- フィリピン:水源涵養林やマングローブの植林等の学外実習や校内の農園等での体験を予定していたが、コロナの影響で規模を縮小しておこなった。

3. 再生可能エネルギー資源活用支援事業

ネパールにおいて、森林破壊の歯止めと薪の代替燃料確保のため牛糞発酵によるバイオガスの普及を実施。シンドゥパルチョーク郡に新たに30世帯に30基のバイオガスプラントを設置した。この30基により新たに薪の使用量を年間当たり約84,000Kg削減でき、150トンの二酸化炭素排出を抑えることにつながった。

(一部、りそなアジア・オセアニア財団環境プロジェクト助成事業)

E. サイクル・エイド事業

大阪府内の放置自転車有効利用の一環として、再生自転車を必要とするアジアの開発途上地域に寄贈する事業。本年度は、カンボジアのプレイベン州に 148 台、クラチェ州に 372 台、合計 520 台の自転車を寄贈、主に農村地区の子どもたちの通学や女性の生活改善のために有効活用され、受益者たちが自立への一歩を踏み出した。もう一カ国予定していたタイへの支援はコロナにより実施できなかった。(競輪の補助事業)

F. ワークキャンプ、プロジェクト視察

ワークキャンプは新型コロナウイルス感染症の影響により全て中止。カンボジアでワーキングツアーを予定していたイオン労働組合連合会では現地とオンラインでつなぎ、アフターコロナに向けて現在実施可能な活動の相談会を実施した。プロジェクト視察に関しては、ネパールに 1 回の視察を実施した。本視察は外務省令和 1 年度日本 NGO 連携無償資金協力(N 連)の協力を受けて実施事業を目的に行われた。

II. 公益目的事業 2 国際交流支援事業

A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

将来の本会のネットワーク事業を担う各国各部会の職員の研修、育成のために奨学金支援を行っている。フィリピンのアジア社会科学院(ASI)の地域開発コースが新型コロナウイルス感染症により開校されず予定者の派遣をできなかった。インド、ナグプール大学社会開発学科に 1 名の奨学支援をおこなった。

2. 海外ボランティア研修制度

新型コロナウイルス感染状況を鑑み、募集を行わなかった。

B. ネットワーク推進事業

1. 国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

第 30 回アジア国際ネットワークセミナーをスリランカにて予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。その代替りとして 2020 年 11 月と 2021 年 2 月にオンライン会議を行い、コロナ禍における各国のチャプターの近況報告と情報交換を行なった。

(2) 国際ネットワーク機能強化事業

上記のアジア国際ネットワークセミナーのオンライン会議のための企画・事前リサーチから運営までを行い、ネットワーク機能の維持・強化を推進した。

(3) アジア・フレンドシップ夢基金

貧困なきアジア社会の実現を目指して発足したアジア草の根の自立・連帯基金。2020 年度は、上記のアジア国際ネットワークセミナーにて共通基金の拡大に向けた政策や課題の共有及び諸報告を行った。

(4) アジア・フレンドシップ財団

インド、タイ、日本の実業家を中心に、マイクロクレジットの国際版を行う計画だが、新型コロナウイルス感染のため延期となった。

2. 国際体験交流(スタディツアー等)

新型コロナウイルス感染症の影響により、全て中止した。

Ⅲ. 公益目的事業 3 災害罹災者に対する生活支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

(1)ネパール中部地震 災害復興支援

2015年4月25日のネパール中部地震の復興及びその後の持続可能な地域づくりを目指し、シンドゥパルチョーク郡の根本的な水の不足を解決するために、外務省の「令和元年度日本NGO連携無償資金協力(N連)」から資金供与を受け、揚水システム設置と農業基盤づくりを行う大規模な復興支援事業の2年目事業を実施し、昨年完成した揚水システムの本線から東側の525世帯に配水するための給水用貯水タンク5基、農業用貯水水槽6基及びパイプの敷設を完成することができた。引き続き、「令和2年度日本NGO連携無償資金協力(N連)」から資金供与を受け、3年目の工事を開始し、対象地の西側の集落に対しての飲料水と農業用水の配水をめざした工事を開始した。

(2)東日本大震災支援

東日本大震災の風化を防ぐと共に未だ復興のために懸命な現地の人々を支えることを目的にパナソニックグループ労働組合連合会と共に被災地各所の視察を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

(3)新型コロナウイルス感染症対策支援

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴い、突然、職を失い、日々の食事さえ出来ない生活困窮状況の長期化それによる命の危機を守るために食糧支援。また、感染リスクを軽減するための衛生用品の配布や感染防止啓発活動をはじめ、コロナ禍において更に困窮状態に陥った人々に対して、5ヶ国7団体の現地ネットワーク団体と通じて支援活動を実施した。併せて、国内の留学生の生活支援として、49人に対して生活費の一部の支援を行った。募金総額 10,624,818円(2021年2月末現在)。コロナ禍において命を守り、生活を守るために必要な支援を実施することが出来た。

(4)九州豪雨被災者支援

7月4日熊本県南部は記録的な豪雨が襲い、河川の氾濫により甚大な浸水被害を受けた。コロナ禍の被災のため直接救済支援の実施はせず、益城町を通しての要請を受け、現地の活動グループを通して、浸水、倒壊した家屋などの復旧作業に必要な長靴やレインコート等の物資の支援をおこなった。

(5)台風ユリシーズ被災者緊急支援

大型台風22号(ユリシーズ)が11月11日から12日にかけてマニラ周辺を直撃し、コロナ感染拡大もおさまらない中での被害に対して、マニラ首都圏東部のリザール州の被災者838世帯への支援物資配布を実施した。

Ⅳ. 公益目的事業 4 普及啓発事業

A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1)JAFS チャリティプログラム

本会の活動に様々な形で一般市民に加わってもらえるようチャリティ企画を行った。恒例の春と秋の住道駅前のJAFSチャリティバザールは新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。また「アジアン・チャリティフェスティバル」は5年目を迎え、2度目の公益財団法人大阪国際交流センターとの共催で開催。新型コロナウイルス感染拡大のため、入場者数、飲食の出店やステージ内容を制限して実施した。初めて映画上映会や留学生によるプレゼンテーションを実施し、多文化共生の観点から在関西のアジア系市民との交流を深めるチャリティイベントとして221名の参加者があった。その他、それぞれ各地域の支援趣旨のもと、チャリティイベントやコンサートを実施した。

(2) 国際理解教育講座

国際理解教育講座は、学校及び団体へ講義を行った。例年に引き続き、小学校、高校、大学、企業への講義を実施。幅広い社会層の人たちへ国際理解への推進につながった。(講師派遣のべ8カ所、参加生徒・団体員数345名)その他、学校からの委託により授業を受け入れ、講義を実施(1校15名)。

(3) 国際ボランティア啓発活動

JAFS ぞうすいの会や地区活動などにて、適宜プロジェクト報告を行い、プロジェクト理解の促進やアジア社会の現状の理解につなげたが、予定していた活動がコロナの影響で急遽中止となる事が多発した。

(4) アジア文化理解講座

日本に住むアジアの人々と共に、異文化理解講座等を実施し多文化共生社会の実現を計画していたが、コロナの影響により、中止または延期となった。

(5) 研修生・実習生受入プログラム

大学生の個人応募による4名、大学からの依頼により大阪大学の大学院生1名の計5名が本会での活動を通じて、国際協力団体の活動内容及び市民運動体の運営に関して学び、海外プロジェクト後方支援やファンドレイジング・広報事業の実習を通し、事業推進への貢献活動を実施。

(6) 法人関連プログラム

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、例年開催しているセミナーは実施しなかったが、アジアからの留学生支援の一環として、コロナ緊急支援留学生&支援者交流会を開催した。

(7) JAFS 社員クラブ

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、例年開催しているセミナーは実施しなかったが、アジアからの留学生支援の一環として、コロナ緊急支援留学生&支援者交流会を法人賛助会と共に開催した。

(8) JAFS アジア市民大学

JAFS 創立40周年記念行事の一環として、政治・経済・自然・社会・文化など多角的に一味違うアジアを探求する場として、2019年1月に開学。今年度は第2期として4月開講の予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、延期を余儀なくされ、9月に開講し、3月まで10回の講座を実施した。専門的視点からアジア個々の国の文化理解に向けた講義と相互交流が行われ、10回で延べ183名が受講した。

(9) コロナ緊急支援留学生&支援者交流会

新型コロナウイルス感染拡大のため当初予定していた「日本語スピーチコンスト」を中止し、コロナ緊急支援募金により支援した留学生と支援者との交流会を実施した。参加者38名(内留学生17名)

(10) JAFS SDGsセミナー

今後、JAFSが何を大切にいかに関与すべきかを見直し考える機会として、全世界共通のテーマであるSDGについて、国際協力の専門家、実践者から2021年1~4月に5回に渡ってオンラインでセミナーを実施した。

(11) JAFS グローバルコミュニティ・カレッジ(GCC)

「今、地球は危ない」をテーマに、グローバル化した地球で起きている様々な問題について解決の糸口を共に考える勉強会を10月～2021年3月に3回開催した。

(12) 関連プログラム／その他団体協力

関係団体と連携の中、理事、評議員、運営委員、講師として協力。関西の NGO 活動の推進のため、関西 NGO 協議会(KNC)の理事(副代表)、国際協力 NGO センター(JANIC)の理事、関西国際交流団体協議会は監事として関わり、各ネットワーク NGO を通して市民組織活動の社会意義を広げる活動に関わる。加えて関西最大の国際協力のお祭り“ワン・ワールド・フェスティバル”は実行委員会メンバー、ユース世代のための国際協力フェス“ワン・ワールド・フェスティバル for Youth”には運営委員として協力したが、いずれもオンラインにより実施された。その他多くの関係団体との繋がりの中で本会の活動の更なる推進と関西最古の NGO としての役割を担った。

2. 地区活動

本会の活動をより多くの人たちによって支援されていくためには、様々な地区活動が必要で、地区世話人を中心に広報、ぞうすいの会、ウォーカソン、コンサート・等が企画されたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、多くのイベントが中止を余儀なくされた。一方、各地区会ごとに会長・副会長・事務局長・書記の組織を整え、11月7日には初の地区会長会を実施した。

3. 広報

(1) 機関誌

本会活動情報誌「アジアネット」を年4回(各4,200～4,500部)発行し、事業報告と海外情報などを提供した。新規の支援者を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開スペース向けにも送付した。ホームページ上でも公開した。

(2) ホームページ・SNS

ホームページについて、画像の活用による発信情報の魅力向上、寄付・会費のクレジットカード決済までの導線改良、などを目的としてリニューアルした。またこれまで SNS として用いていたフェイスブックの他に、新たにInstagramとYouTubeも開設した。これらにより、本会の活動状況、ニュースやイベント情報、アジア文化情報などを、随時更新し発信した。

4. プロジェクト支援(支援会・ファミリーグループ)

各支援会、ファミリーグループなど15グループが様々なイベントやチャリティ活動に参加し、本会の支援事業の応援を、コロナ感染対策を講じながら精力的に展開した。

5. 関連市民活動

関西ナショナル・トラスト協会、日本を良くする会、グリーンベイ OSAKA の活動もそれぞれの設立趣旨の下、活動が行われた。

B. 環境保全・啓発教育事業

国際グリーンスカウト活動

(1) 「土と水と緑の学校」開催中止

第37回「土と水と緑の学校」を和歌山県新宮市にて8月5日～10日に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

(2) 美山「土と水と緑の自然学校」開催中止

美山「土と水と緑の自然学校」を京都府南丹市美山町にて3月下旬に開催する予定であったが、昨年に続いて新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

(3) 国際グリーンスカウト国内活動

本会が提唱した国際グリーンスカウト(“Clean & Green”の標語の下で、地球環境保全を地域で推進する)活動として、アジア各地のグリーンスカウトメンバーが活動を行っている。地域活動にリンクさせながら活動を実施しているがコロナ感染症の影響により、活動中止が多発した。吹田部会は、毎月1回例会、糸田川清掃活動を実施した。

V. 運営管理

第9回定期社員総会を実施し、役員の選任が行われ、新しい会長が選出された。その新理事体制のもと、本年度も、理事会(4回)を開催、事業や運営の課題について話し合った。それに伴い、各常置委員会を委員長はじめ委員により、コロナ禍で活動制約中適宜委員会を開催し、運営管理をおこなった。

- ・公Ⅰ(開発支援事業)委員会(委員長 福澤 邦治):5月、9月、12月、2月、3月 計5回
 - ・公Ⅱ(国際交流)委員会(委員長 西田貞之):7月、10月、2月、3月 計4回
 - ・公Ⅲ(災害罹災者に対する生活支援)委員会(委員長 藤原正昭):4月、7月、10月、12月、3月 計5回
 - ・公Ⅳ -1.広報企画委員会(委員長 法花敏郎):4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、2021年1月、2月、3月 計12回
 - 2.会員拡大・地域広報活動委員会(委員長 齋藤公代):7月、9月、10月 計3回
 - 3.企画事業委員会(委員長 沖田文明):7月、9月、11月、12月、2月 計5回
 - 4.国際理解・文化事業委員会(委員長 實 清隆):7月、9月、11月、12月、2月 計5回
 - 5.SDGs活動委員会(委員長 松原 正):11月、12月、1月、3月 4回 計5回
 - ・特別委員会 -政策審議委員会(委員長 井上勇一):9月、12月 計2回
 - 経営企画戦略委員会(委員長 米田明正):7月、8月、9月、10月、11月、12月 計6回
 - ・法人管理部門 総務財務委員会(委員長 櫻井紘哉):4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、2021年1月、2月、3月 計11回
- それぞれが今年度も公益法人としての、ガバナンス、コンプライアンスルール強化を行った。

以上を以て2020度の活動事業報告の概要としたい。

I. 開発支援事業

建設中の井戸	39基
インド	1基
カンボジア	0基
スリランカ	2基
ネパール	18基
バングラデシュ	8基
フィリピン	8基
ミャンマー	0基
ラオス	2基



フィリピン 井戸が完成して喜ぶイネス小学校の生徒たち



インド ガッチロリ県 井戸から安全な水をくむ村の女性たち



ネパール 学校できれいな水が飲めるようになって喜ぶ生徒たち



カンボジア タケオ州 井戸の完成に喜ぶ村人たち



スリランカ きれいな水を得て喜ぶ女性や子どもたち

I. 開発支援事業

I-B. 子ども事業

1. 初等教育普及・向上

(1) アジア里親の会

子どもたちの健全な育成に必要な教育。そして、子どもたちは教育を受ける権利があり、大人はそのための環境を整えなければなりません。しかし、アジア地域では経済的理由や教育を受けることが困難な状況下に置かれ、今なお、学校に通えない子どもたちが多くいます。本会では、そのような子どもたちの一人でも多くが、就学することにより基礎教育を受ける機会を得ることが出来るよう、インド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピンの子どもたちを里子、日本側支援者は教育里親としてサポートする。加えて中途退学学生を減少させ、農村部の子どもたちの教育向上をめざしている。

以前と比べると就学適正年齢での入学者の向上、女子教育に対する理解は改善されつつあるも課題は依然多くある。特に、近年、経済発展が目覚ましいアジア諸国の中で多く見られるのが、途中退学である。中学生になると工場で働くことを選ぶ子ども、選ばせる親が増える。しかし、結局低賃金やきつい労働を優先的にさせられ、貧困のサイクルから脱出できない状況を生み出している。就学を続けることにより、知識や思考力を養うことが、一歩先を考える力、自分の将来を築く力となっていくことへの理解促進や啓発もあわせて必要である。

また、現地の経済状況や災害などにより、生活のために仕事を求めている都市部や工場地帯への移住が、度重なる子どもたちの転校が原因となり、就学からの途中脱落へとつながっている。

加えて学校には、教材不足、低質な教育内容、教員不足など様々な問題・課題が山積みで、その改善には地域（コミュニティ）を巻き込んだ学校教育の確立を行っていく必要がある。

本支援では、里子の学費や彼らが通う教育施設の運営を支援。支援と同時に里親と里子が手紙を通じての相互交流を行った。2020年度は423人の里子を支援。里親の存在が里子たちの心の支えになり、学習への意欲や将来への希望を見出すなど、良好な方向に導くことに繋がっている。特に、コロナウイルス感染症の影響を受け休校が続いた状況下での支援は、里子・学校側両方へ大きな支えとつながり、自宅学習の励みへとつながった。

アジア里親の会 里親決定状況 (2021年3月現在)

国名	2020年度里子数	里子累計数
インド	152	458
カンボジア	69	224
ネパール	143	286
バングラデシュ	35	241
フィリピン	24	33
合計	423	1,236

●インド

BSVIA 教育支援事業 67名

【カルナータカ州ビジャプーラ県ブルナプール村】

アジア里親の会の支援を通して、日印友好学園コスモニケタンの

教職員の給与、教材、制服、文具などの運営の一部を支援した。

SSH 教育支援事業 6名

【タミルナードゥ州ナマカル県】

家庭の事情により学校に通えない小学生、特に家族や両親、子ども自身が HIV に感染し、差別を受けている子どもたちを対象に、より多くの子が学校へ通えるために学費や制服代、学用品などを支援。加えて子供たちカウンセリングプログラムを実施しケアを行っている。(累計70名)

RUDYA 教育支援事業 50名

【マハラシュトラ州ガッチロリ県パダトラ村】

日印友好学園パダトラ小学校に通う少数民族の子どもたちへの教育支援。遠方からの就学者に対しては寮にて生活できる体制を作り、通学困難により離学することを防ぎ、就学率の向上を目指している。

AFS-Nagpur 教育支援事業 29名

【マハラシュトラ州ナグプール県】

スラム街の子どもたちが継続的に就学し、教育を受け自立を促すことを目指したチャイルドアカデミーへの支援。加えて就学に必要な文具配布や読み書き教室を実施して、子ども達の学習意欲とモチベーション向上を目指した活動をおこなった。老朽化していたチャイルドアカデミーの建替えを行い、無事にオープンすることができた。

●カンボジア

KAFS 教育支援事業 69名

【タケオ州】

タケオ州の小学校、中学校、高校の運営支援および、子どもたちへの教材や年一度の校外学習の支援。里子を含めた村の子どもたちを対象とした英語の課外授業の支援。

●ネパール

AFS-Nepal 教育支援事業 20名

【ノールパラシ郡カワソティ市ピトゥリ村】

ピトゥリ村のスリーサンティ小学校、ラーズラトナ小学校、ピトゥリ小学校の就学対象者の中で自費就学が不可能な子どもへの学費支援(継続就学と高校教育修了)と学校運営支援を実施した。

AFS-Nepal ナウリンセカンダリースクール 79名

【カトマンズ郡ブタニルカンタ市チュニケル村】

チュニケル村の自費就学が出来ない貧農民や移住労働者の子どもたちが安心して就学できるように、学費支援と学校運営支援を実施した。

AFS-Nepal ボテシパ村 教育支援事業

チャンドスウォリ H.セカンダリースクール 18名

AFS-Nepal サラソワティ L.セカンダリースクール 20名

【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.Word No.10 ボテシパ】

2015年の中部大地震により大きな被害を受け、家屋倒壊により経済状況が悪化した世帯や親を亡くした子どもたちの就学支援を引きつづき実施。高等学校卒業まで就学できるよう学費支援と学校運営支援を行った。

I. 開発支援事業

AFS-Nepal バクタプール教育支援事業

クリエイティブ イングリッシュ セカンダリースクール 6名

【バクタプール郡バクタプール市】

2015年の大地震で大きな被害をうけ、その後経済状況が困難になった学生たちが就学を継続でき、10年生(中等教育終了学年)を修了し高等教育に進学するまでの支援を行った。

●バングラデシュ

BDP 教育支援事業

35名

【ダッカ・ガジプール県】

規程の小学教育を受けられない地域の子どもたちを対象に、中学校以上の就学を推進すると同時にしっかり学び高等学校卒業をめざした支援。特にバングラデシュでは小学校卒業以上の就学費の個人負担額が多くなるために中学校以上の就学率が下がる。そのため就学意欲のある子どもが継続的に就学できるよう、支援を行うと同時に教育向上を目指し補習の受講支援をおこなった。

●フィリピン

ASI 教育支援事業

24名

【カビテ州ダスマリネス町バリパラン】

【マニラ市マラテ町サンアンドレス】

マニラ市郊外のダスマリネス町バリパランに強制移住させられた家族の子どもたちと、彼らの元居住地であった国鉄線路沿いの地区、サンアンドレスにて移住先のない家族の子どもたちが、継続就学できるように、授業料、教科書、教材、学校補習等を支援した。

2. 教育設備・環境整備

(1) 学校建設

(2021年3月現在)

国名	2019年度建設数	校舎棟累計数
インド	0	24
インドネシア	-	2
カンボジア	0	42
タイ	-	10
中国	-	1
ネパール	0	※44
パキスタン	-	2
フィリピン	0	8
ベトナム	-	3
合計	0	136

※学校及び研修施設、コミュニティホール数を含む

●ネパール

AFS-Nepal 小中学校増設及び設備支援

学校校舎復旧に対する建設を実施予定であったが、コロナウイルス感染症の影響により、実施を中止した。

(2) 教育環境整備

●インド

BSVIA 日印友好学園コスモニケタン

【カルナータカ州ビジャヤプーラ県ブルナプール村】

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、休校中の教師たちの保証支援を行った。

RUDYA 日印友好学園パダトラ小学校

【マハラシュトラ州ガッチロリ県パダトラ村】

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、休校中の教師たちの保証支援を行った。

AFS-Nagpur チャイルドアカデミー

【マハラシュトラ州ナグプール県】

スラム街の子どもたちが継続的に就学し、教育を受け自立を促すことを目指した支援。チャイルドアカデミーの建替えが完成し、オープン時に COVID-19 のため学校に行けていない子どもたちへ学用品の配布を行った。

3. HIV/AIDS 子ども感染予防

●インド

SSH HIV/AIDS 支援

2世帯

【タミルナードゥ州ディンディガル県・ナマカル県】

家族の一員が HIV/AIDS に感染し、安定した生活を送ることができず、子どもへの教育継続のままならない世帯に対して、栄養食の配布、抗 HIV/AIDS ウィルス薬の定期接種、HIV/AIDS に感染しながら生活するためのトレーニング、マイクロクレジットを支援している。今年度は、タミルナードゥ州ナマカル県、ディンディガル県の農村 2 世帯を支援した。

4. 栄養改善・ストリートチルドレンの保護・教育支援

●ネパール

AFS-Nepal 栄養改善支援事業 小学校給食

【ルンビニ県ノールパラシ郡カワソティー-N.P.ピトゥリ村】

ネパールは自給率がほぼ 100%であるが、暮らしの中で、自給できる範囲の食物での食事です。その食品種は少なく、日常の食事から摂取できる栄養素に偏りがある。食品種を増やすなどの工夫ができないその原因は大きく二つあり、一つ目は経済的な要因。二つ目は栄養への理解不足。小学校での給食と栄養知識普及を行うことで、子どもたちの健康や成長不全状況が改善されることを目指している。農村部ではカロリー確保するために炭水化物中心の食生活で、成長期の子どもたちに必要なたんぱく質をはじめとした栄養素の摂取が不十分である。ピトゥリ村スリーサンティ小学校の約 210 名の生徒を対象に、週に一度、卵と牛乳の給食を継続的に支援(26年間)。教育的要素を兼ねたプロジェクトとなっている。継続支援を行う事で就学児童たちの健全な学校生活と健康保全に繋がっている。新型コロナウイルス感染症の影響により休校期間が長く 12 月～3 月間のみ給食が実施出来、その間、月に 5 回ずつ実施した。また、地域の栄養指導者の人材育成を行う栄養士育成対象者 2 名が決定し、今後、日本の栄養士過程で学ぶ準備中である。

I. 開発支援事業

●フィリピン

ASI ストリートチルドレン支援

【カビテ州ダスマリネス町バリパラン】

【マニラ市マラテ町サン・アンドレス】

マニラ市サン・アンドレスにて、廃材で作られた家で生活を送る世帯、またバリパランに強制移住させられ、安定した経済状況を送ることができない世帯の子どもたちに対して、継続した教育が受けられるよう、支援を実施。今年度は、子どもたちへの学用品等の支援、コロナ禍で学校の通えない子どもたちのための補習授業、感染拡大させないための衛生・環境教育、リーダーシップトレーニング等を実施し、子どもたちが自信をもって物事に取り組めるよう、活動することができた。また保護者への話し合いもおこない、子ども達が継続して学べる環境を整えることができた。



インド・コスモニケタン学園のコロナ禍での高学年授業



インド・パダトラ小学校の野外での授業の様子



インド 新築されたチャイルドアカデミーにての集い



ネパール元気な様子を見せてくれた教育里親支援の里子たち



バングラデシュ 学校にてコロナ感染予防についての学習

I. 開発支援事業

I-C. 貧困対策事業

1. マイクロクレジット支援・能力開発

(1) 小規模産業育成支援

●インド

HDSI 低所得層の女性による養鶏を通じた生活改善

【マハラシュトラ州アムラワティ県アチャルプール地区ダリヤバード村】

女性の自助グループ(SHG)を対象に、養鶏を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止。

●カンボジア

KAFS 貧困層の村への開発支援資金(旧マイクロクレジット)

【タケオ州ドーンケオ郡、トレアン郡】
「貧困層の村への開発支援資金」として、村の開発委員会に供与される資金を村人に無利息にて資金を貸付する形で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止。

●ネパール

AFS-Nepal 小農家自立支援

【シンドウパルチョーク郡インドラワティG.P.10地区(旧ボテシパ村)】

農業による暮らしが成立せず出稼ぎや移住が多発する農村部の人々が安定収入により暮らしが成り立つことを目指し、持続可能な地域づくりを目指して農業支援を実施。地震復興支援としての農業基盤づくりと共に、将来的に地域のために農業指導者となる青年1名の農業専修学校への授業料サポートを実施した(6年間コースの1年目)。

●フィリピン

AFS-UMD 漁民及び農民への小規模産業育成支援

【ソルソゴン州マトノグ町ゲナブラン村他7ヶ村、ソルソゴン州マトノグ町シティオパラドテウガス村】

沿岸地域の養殖開発や薪のために失われたマングローブの森を取り戻し、漁業に携わる人々が持続的に魚が生息する漁場を作るために植林したマングローブのメンテナンスや苗床づくり、を継続しておこなった。各村々で自主的に協力しておこなうことで環境保全の意識が高まってきている。

また、町から遠く離れ道路・水路・農地等が整備されていないテウガス村の特に若い世代が、村で生計につながる農業をおこなえるよう、支援を開始した。

【第1期】

- ①種子の収集、果物や食用作物の植え付け
- ②有機肥料による土壌改良と苗木の生産
- ③土地利用計画の設計と水と土壌の流出管理
- ④農作物の販路の開拓
- ⑤ファームステーションの建設(研修・育苗・水タンク設置)

(2) 職業訓練

AFS-Pandan 障がい者支援

【アンティーク州パナイ島パンダン町】

障がい者や家族の生活は、コロナによる行動制限により更に厳しいものとなった。パンダン障がい者協会のメンバーが中心となって、必要とされる定期的な通院や福祉機器の運搬の協力をおこなった。仕事を失った家庭への救援物資の配布や医薬品と食料を購入時に割引を受けられる障がい者IDカードの発行をおこなった。卒業した障がい児童の自立を目指し、使用済みのプラスチックを再生してエコブリックをつくるための機材を支援した。

2. 保健衛生指導・医療

(1) トイレ建設

(2021年3月現在)

国名	2020年度完成	累積
インド	-	1,205
カンボジア	-	4
バングラデシュ	-	275
パキスタン	-	6
ネパール	30	1,034
タイ	-	9
ラオス	-	1
フィリピン	0	1
合計	30	2,535

●バングラデシュ

BDP 学校トイレ設置(再建)

【ボリシャル県、ネトロコナ県】

BDPが運営しているノンフォーマル教育の学校のトイレが老朽化し、再建が必要であるが、コロナ影響を受け実施できなかった。

●ネパール

AFS-Nepal 農村トイレ建設支援

(バイオガスプラント設置付帯事業) **30基**

【バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティG.P.10地区6地区】

バイオガスプラント設置時にトイレの設置が条件付けされている。そのためにバイオガスプラント設置時にトイレ設置を始める農家が多くなっている。今年度はバイオガスプラント30基の設置に対し30世帯にトイレの設置が行われた。

(2) 医療支援

●インド

RUDYA ムスカ村住民のための保健プロジェクト

【ガッチロリ県ダンノーラ地区ムスカ村】

2017年11月に開設したムスカ村の病院(診療所)に対して、看護師1名が常駐し、医師を週1回派遣することにより、住民が診

I. 開発支援事業

療を受けるよができるように支援した。医療療機材なども十分に
なく、診療体制が整わないために、十分な診療ができず運営力も
つかないことが大きな課題である。

●ネパール

AFS-Nepal 地域医療向上支援事業

【バグマティ県シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区
(旧ボテシパ村)、カトマンズ郡ブッタニルカンタ N.P.(旧チュニケ
ル村)、【ルンビニ県ノールパラシ郡カワソティ-N.P.ピトゥリ村】

ネパールの農村部の学校では性教育を実施できている学校が
ほぼない状態である。女子学生が自分の健康を守ると同時に、
思春期の大切な時期の学校生活を安心して送れるように、日本の
有志により布ナプキンを作成し、そして自分たちの体の事を正しく
理解するために性教育を実施予定であったが、新型コロナウイルス
感染症の影響を受け中止、今後現地にて布ナプキンの作成
を実施してためのミシンの準備支援のみ実施した。



フィリピン 障がい者協会 救援物資を配布

3. 提携 NGO 運営助成

本会の国際事業の柱の一つとして、国際ネットワークAFSの各
国部会(NGO)の活動の強化は必須である。しかし、発展途上国
では NGO の自己資金調達が困難であり助成を必要としている。
自立運営を目指して、以下の各団体の運営に協力した。運営費
及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務所諸経費
も本会で負担。

RUDYA(インド)

運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務
所諸経費も本会で負担。

HDSI(インド)

インドにおけるグリーンスカウト運動を全国的に進めるため、運
営費及びプログラム経費を一部補助。

KAFS(カンボジア)

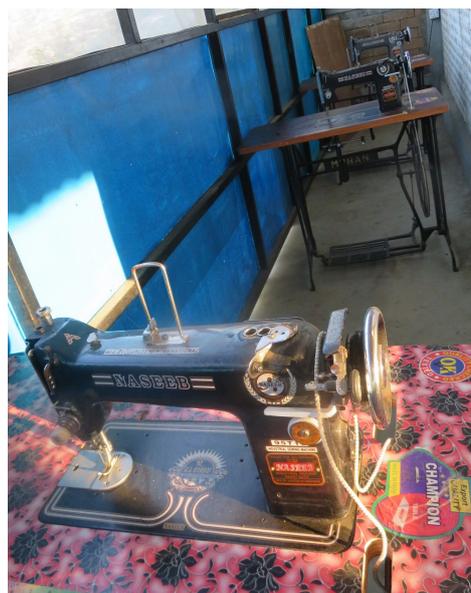
運営費及びプログラム経費を一部補助。また、職員給与・事務
所諸経費も本会で負担。

SARVODAYA(スリランカ)

サルボダヤの元スタッフのクナシリ氏の活動費を支援。水事
業継続、サルボダヤの瞑想研修センターの人材育成、孤児の保
護と教育・障害者の職業訓練、高齢者の支援施設であるサルボ
ダヤ・スワセタ・セワにおけるファシリテーターの育成を行った。



ムスカ村 保健医療支援 診察を受ける村人



ネパール 女性用ナプキンづくりのためのミシン支援

I. 開発支援事業

I-D. 環境事業

1. 植林・水源涵養林養育

持続可能な社会づくりに向けて、災害や環境破壊から回復力の強化に対して、環境保全は必要不可欠である。また地球温暖化が世界の大きな問題となり、その原因の多くは温室効果ガスで、プラスチックの生産、使用量が課題とされているが、森林減少に伴う温暖効果ガス排出量は世界全体の排出量の2割を占めるのも事実である。植林は大気浄化という大きな役割と共に、我々の活動の根幹にある。安全な水の供給のための水資源を確保にも必要不可欠である。同時に、持続可能な地域づくりにおいても森林は不可欠であり、農作物の収穫量の減少により農業をあきらめ、都市部への労働移住につながっている。それは、更なる環境汚染や貧困への要因にもつながる。これらを防ぐためには、地域のリソースを活かしながら、自然環境が自らの社会にもたらす影響を教育や啓発を通して学び、自然を守る心を育て、環境保全を実践していかなければならない。

(1) 植林

(2021年3月現在)

国名	2020年度植林	累積
インド	-	712,205
インドネシア	0	207,460
カンボジア	-	18,000
スリランカ	-	675
タイ	-	20,500
中国	-	1,105,525
ネパール	333	303,857
パキスタン	-	4,560
フィリピン	0	166,515
バングラデシュ	2,028	28,528
	2,361	2,567,825

●インドネシア

HOSANNA 植林

【北スラウェシ州タリセ島エアバヌア村】

2018年度から、環境保全の一環として、北スラウェシ州の孤島タリセ島の孤島にあるエアバヌア村の植林は、今年度もイオン労働組合の支援で実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

AFS-Aceh 植林

【アチェ州アルーナガ村】

アチェ州は、2004年12月に発生したインド洋スマトラ沖大地震・津波の最大被災地。多くの国際機関の援助により村々は復興したが、災害が風化し、地球温暖化の影響が押し寄せる中、人々はますます環境を汚染するようになった。災害当時に防潮林であるマングローブの植林を行った AFS-Aceh のスタッフと地元の大学生との協力により 2017年に再び環境保全と地元の小学生の環境教育

を目的に、マングローブの植林を実施し、子どもたちに環境保全への気づきを与えることができた。2018年度からの3か年計画の3年目としてマングローブの植林と地元の小中学生に対する環境教育を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため2021年度に延期となった。

(2020年度公益信託地球環境基金日本基金助成事業)

●ネパール

AFS-Nepal コミュニティー フォレスト 333本

【バグマティ県シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区(旧ボデシバ村)】

今後地震などの災害が起きた場合、避難できる緑多い地域の公園づくりを目指し、杉、広葉樹林、ジャカラダの植樹を行った。また、地域の学校3校の緑化を目指して植林活動を行い、学校を彩る花木を中心に植樹、現地の緑化を長期的に推進していくことを目指し果樹等の苗木2,000本の育成を実施している。

(令和元年度緑の募金公募事業)

●バングラデシュ

BDP 学校を中心とした植林活動 2,028本

【ボリシャル県、】

BDP が運営するノンフォーマル教育の小学校の子どもたちが、環境を意識し、地域の環境を守る意識づくりを行うため、各学校にて植林活動と環境教育の実施を行う計画。コロナの影響により環境教育プログラムは実施できなかったが、4県4校で生徒たち1,014人への苗木(マンゴー、ジャックフルーツ、ココナッツ、ポプラ等)の配布し、地域への植樹活動を実施した。また教師たちを中心として環境教育を実施していくための実践研修などをおこなった。今後の環境活動へ活かしていくこと目指している。

(2020年度連合愛のキャンパ 中央助成事業)

●フィリピン

AFS-Pandan バンダン水源の森植林

【アンティーク州バナイ島バンダン町】

マロンバティの水源地を守る森を保全するために、水道局が中心となって苗木作りや定期的な草刈り等、森のメンテナンスをおこなった。新型コロナウイルス感染拡大防止のために、地元の子供達による大規模な植林は実施されなかった。

2. 環境改善・国際グリーンスカウト

国際グリーンスカウト(GS)運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全」に取り組む市民活動である。1986年に本会が提唱。アジアにおける「理解と協力と連帯」の輪を広げる実践活動の一環として、AFSの海外ネットワークを通じて16か国にて展開した。アジア各国に草の根市民による環境保全活動を広げることを目的としている。

I. 開発支援事業

●インド

HDSI グリーンスカウト運動支援 1校

【マハラシュトラ州アムラワティ県チャンドラバザール地区】

チャンドラバザール地区は、アムラワティ県においても農村と都市部を結ぶ橋として知られており、昨今のアムラワティ県中心地の経済開発により、農村部の移住者が、チャンドラバザール地区に居住するようになり、一部はスラム化し、環境が悪化が進んでいる。HDSIは、チャンドラバザール地区にて小学校(英語を言語とする)を運営しており、この子どもたちと共に毎月1回、グリーンスカウト運動として、清掃活動や園芸、環境保全劇などを実施している。2020年度も引き続き、その小学生たちへの環境啓発・教育を行った。

●ネパール

AFS-Nepal 小学生環境セミナー 3校

【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区 (旧ボテンパ村)】

環境活動により地域環境、学校環境活動を行うためのジュニアリーダー育成を行う小学生対象の環境セミナーを年2回実施しているが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、実施することができなかった。少なくとも知識の向上を行おうと、環境テキストの作成を行い、参加予定であった下記学校へその本の配布を行った。

参加校=チャンデソワリ小学校、サラソティ小学校、ジャネソワリ小学校

※一部、りそなアジア・オセアニア財団環境プロジェクト助成にて実施

AFS-Nepal グリーンスカウト ローカルGS組織づくり

【カトマンズ郡ブタニルカクタ N.P.チュニケル村、ノールパラシ郡カワソティ N.P.ピトゥリ村】

村の青少年を中心としたローカルGSづくりを奨励。環境改善に向けての方法を考え、行動できるように促している。ピトゥリ村GSは、地域の子どもたちが小グループを作り、環境美化推進運動を実施。住居周辺道の清掃活動をスリーサティ小学校、ラズマンディル小学校、ピトゥリ小学校の生徒と地域住民が協力して継続実施している。チュニケル村GSは、ナウリンセカンダリースクールの里子たちがその役割を担い地域清掃や河川清掃、植林など積極的な環境保全活動を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校外での活動は実施できなかった。

●フィリピン

AFS-Pandan, AFS-Antique グリーンスカウト運動

【アンティーク州パナイ島 バンダグン町、シバロン市他】

学校を拠点として、環境保全活動について学び、実践する取り組みを実施した。構内に有機農園や池をつくり動植物を育成や、地域清掃等を通じて、地球と地域の環境保全に意識を向け、行動できる人材の育成をおこなった。新型コロナ感染拡大防止のために、キャンプ等は中止された。

3. 再生可能エネルギー資源活用・普及

●ネパール

AFS-Nepal バイオガスプラント設置及び普及事業 30基

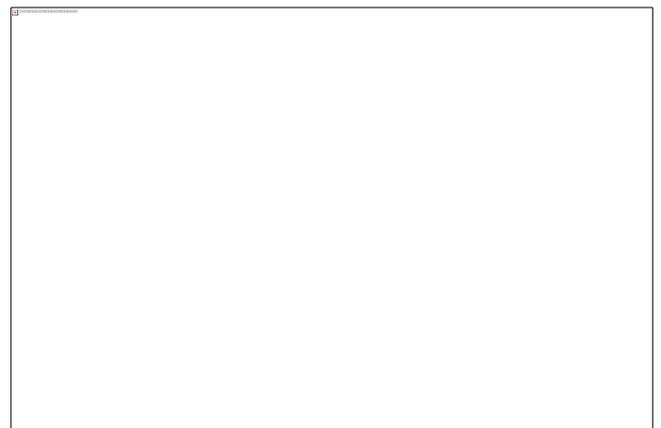
【シンドゥパルチョーク郡インドラワティ(旧ボテンパ村)】

今回の支援により年間の薪の使用料を約76,800kg、また二酸化

炭素排出量を120トン(1基当たり年間5トン減少)抑えることができた。また、1基の設置につき、薪の年間使用量と1世帯当たり4,000Kgの使用量の内70~90%削減することができ、国土の30%台にまで減少(以前は70%)した森林面積の回復にも繋げた。資源がないネパールでは、身近にある牛糞を利用したバイオガスが、確実な燃料確保につながると同時に、森の保全に繋がるために村人に着目されている。そして現在特に注目されているのが、ガスが出た後に排出される糞のカス、スラリーの農業への肥料利用である。対象エリアは、地震後の復興を実施するにあたり、環境に考慮した循環型の地域づくりをめざしている。バイオガスプラントの設置は、環境保全のみならず農村地区の人々の生活改善(薪採集を担っていた子ども、女性の重労働の軽減、薪の煙で目や肺を患っていた女性の健康の改善)にも大きく寄与している。同時にトイレの併設も進み衛生向上にも繋がっている。

【現在まで累計1,198基設置】

※本事業の内20基の設置は、りそなアジア・オセアニア財団環境プロジェクト助成により実施。



ネパール 学校で実施された植林活動



バングラデシュ 環境教育のための教師の植林研修

I. 開発支援事業

I-E. サイクル・エイド事業

1. サイクル・エイド

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう！」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業。大阪府内の放置自転車の数は年間 50 万台にのぼり、内約半数は引き取り手がいないため大きな社会問題、環境問題となっている。一方、アジアやアフリカでは学校の数が十分でないため、長時間歩いて学校に通うか、遠すぎるために通学できない子どもたちが数多くいる。こうした子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上などに寄与し、国際交流の絆を深めることをこの事業の目的とする。放置自転車を修理、再生し、リユースの好循環によって、大阪府内の環境負荷を軽減し、資源循環型社会に向けて地球環境に優しい自転車の活用を促進することを目指す。2005 年度より、本会が事務局として事業を実施。大阪府等がメンバーとなったサイクル・エイド支援会議を設置し、事業を円滑に進めていくよう連携している。リサイクル品を取り巻く環境の変化から、本年度をもって日本からの再生自転車輸送は終了することとなった。

(1) 自転車の寄贈

◆自転車の提供 計 520 台

放置自転車を収集するために、府内各市町村へ協力の呼びかけを実施。今年度は下記の 6 ヶ所から協力を得ることができた。回収された自転車は各市で選別、修理、再生後に泉大津市にある堺泉北港へ運搬され、海上輸送された。

◆府内協力市及び台数

堺市 140 台、泉佐野市 120 台、大阪市 100 台、
泉大津市 50 台、高石市 50 台、東大阪市 60 台
大阪府自転車軽自動車商業協同組合 修理キット提供

今年度は、カンボジアに 520 台の自転車が寄贈された。予定されていたタイへの輸送はコロナの影響により実施できなかった。

事業開始以来、アジア、アフリカの 10 カ国に合計 32,670 台の自転車と 2 台の車椅子を贈ることができた。

カンボジア 520 台

集められた再生自転車は、大阪からシアヌークビル港へ海上輸送され、次にシアヌークビルからプノンペンの陸路を行政やボランティアの協力によって輸送された。今年度は、プノンペンの南約100kmにあるプレイベン州バプノン地区とプノンペンの北東約300kmにあるクラチエ州チェットボレイ地区に寄贈された。

プレイベン州バプノン地区では、3つの学校の148人の貧しい生徒に自転車が寄贈された。チャンボンコミュニティのバプノン高校へ45台、チャウカッチコミュニティのカラエング小学校へ45台、チェウカッチ中学校へ58台の自転車が贈られた。

また、クラチエ州チェットボレイ地区チャンクランコミュニティにあるラオール小学校とトラペントラン小学校の始業式で自転車寄贈式がおこなわれ、372人の生徒に自転車と学習用品が届けられた。式典には協力者である政府、地方自治体、教育関係者、保護者も出席しおこなわれた。これら2つの学校の生徒は、70%が先住民族の子どもで、経済的に厳しい状況におかれている。

自転車を受け取った生徒は、毎日自転車で学校に通うことができ、継続した教育を受けられるようになった。兄弟姉妹、家族と自転車を共有し、通学以外にも農作業等の仕事にも活用されている。

自転車を活用することで、効率のよい生活環境に変えていくことで地域の教育環境や、女性の社会進出が進み生活向上へつながっている。自転車を受け取った子ども達や家族はとても喜び、大切に自転車のメンテナンスをおこない、またより熱心に勉強や仕事に取り組むようになってきた。自転車の寄贈は、公平により必要とされている人々に贈れるよう、政府、NGO、村の組織等で協力体制をとりながら、各家庭を訪問し話し合いによって決められている。

(2) サイクル・エイド関連プログラム

◆サイクル・エイド事業活動相談会

日程:2020年5月13日(水) 場所:大阪市

参加者:7名

内容:寄贈先での自転車利用状況や活用方法について確認とコロナ禍での具体的活動について相談をおこなった。

◆サイクル・エイド募金箱設置

日程:2020年7月17日(金)～3月31日(水) 場所:泉佐野市

内容:泉佐野市のご協力により、市内8ヶ所の駐輪所に活動紹介パネルと募金箱を設置し、協力を呼びかけた。

◆サイクル・エイド事業報告会

日程:2020年9月30日(木) 場所:online

参加者:10名

<内容>

内容:2020年2月におこなわれたカンボジアでの国際交流プログラムについて、参加者及び関係者で報告会をおこなった。自転車を必要としている村を訪れ、インタビューやホームステイをしたこと、また学校でおこなわれた、学生企画の日本と寄贈国の国際交流プログラム等、その体験や学んだことについて報告された。

◆ サイクル・エイド支援会議開催・意見交換・事業報告会

日程:2021年3月22日(月) 場所:大阪府咲洲庁舎

参加者:22名

内容:寄贈先での自転車利用状況や活用方法について報告会をおこなった。現地で自転車を必要としている村の状況や子ども達を取り囲む環境や日本と寄贈国の国際交流についてより深く知ってもらいことができた。また、この事業から派生して環境保全の取り組みや、福祉環境の改善、地域の協力体制も徐々に強まっていることが報告された。

◆サイクル・エイド事業報告会

日程:2021年3月23日(火) 場所:大阪市

参加者:31名

<内容>

内容:寄贈先での自転車利用状況や活用方法の状況について報告会をおこなった。現地で自転車を受け取った子ども達を取り囲む環境や日本と寄贈国の国際交流についてより深く知ってもらいことができた。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのプログラムが中止または延期となったが、オンライン等可能な形で随時事業紹介や協力依頼をおこなった。

※この事業は競輪の補助を受けて実施。

I. 開発支援事業

I-F. ワークキャンプ・視察

1. ワークキャンプ

国際ワークキャンプを通じて本会の海外プロジェクトを支援すると共に、現地での共同作業を通じて国際理解・文化交流の機会とし、本会の活動に対する理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目指し、毎年アジア各国で実施している。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、実施できなかった。

2. 海外プロジェクト視察

1. ネパール 支援事業視察(N 連関連)

期 間:2020年12月18日～2021年1月15日

場 所:カトマンズ、シンドゥパルチョーク郡インドラワティG.P.10地区

派遣者:熱田典子

内 容:令和元年度日本 NGO 連携無償資金協力支援事業の事業調整、視察、事業関連トレーニング実施他



カンボジア サイクル・エイド事業の自転車寄贈式



カンボジア サイクル・エイド支援で通学のために自転車を贈られた子ども



フィリピン 漁業再生のため管理中のマングローブの成長の様子



ネパール 学校の環境整備活動



バングラデシュ 地域に植林する苗木

I. 開発支援事業



インド マハラシュトラ州に完成し農村の暮らしを支える井戸



バングラデシュ コロナによる休校措置でスラム街の家で家庭学習を強いられている子ども



ネパール コロナ閉鎖がおわり学校の再開に向けての清掃活動



ネパール バイオガスプラントの設置



フィリピン 休校となり狭い家で一日過ごすスラム街の子どもたち



インド コロナ感染防止対策をしての授業の様子

Ⅱ. 国際交流事業

Ⅱ. 国際交流事業

Ⅱ－A. 人材交流・育成事業

1. 奨学金支援

各自の専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく寄与するとみなされる若手の人材育成資金(奨学金等)を支援。

●フィリピン

ASI マニラ

2020年度は、フィリピンの大学院大学、アジア社会科学院(Asian Social Institute ASI)の地域開発専門コースにネットワーク団体より2名の志望者があったが新型コロナウイルス感染症の影響により開校されず奨学支援が中止となった。

●インド

HDSI アムラワティ 1名

HDSIの後継者として現在、HDSIにてボランティアとして活動を行っている Gaius Thorat 氏が専門的な知識を有し、HDSIに持続的に活動できるために、奨学金としてナグプール大学社会開発学科の2年目の学費を支援した。

2. 海外ボランティア研修制度

アジア諸国との国際協力・理解と、市民レベルでの草の根ネットワークを広げていくことを目指し、海外経験を通して幅広い人材育成を行う制度として2000年より実施。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、募集を行わなかった。

3. 人材育成事業

(1) アジア・ユースサミット (AYS)

2019年度のユースリーダーがコロナ禍でユースの役割は何かを考えていくために、下記の活動を行った。来年度の第7回アジアユースサミット実施に活かす。

- ①国内外のユースリーダーの情報共有、意見交換の場のSNSの開設及び定期的なミーティングの実施。
- ②ワンフェス for youth のプログラムに、AYSメンバーとして参加。コロナ禍のユース世代の影響を報告し、コロナ禍でのユース世代らしい活動を継続することの重要性を他のNGOや団体で活動するメンバーと共に共有し、発信した。



ネパールのAYS参加たち スラム街の子どもたちへコロナ支援のボランティア活動

Ⅱ. 国際交流事業

Ⅱ-B. ネットワーク推進事業

1. 国際会議

(1) アジア国際ネットワークセミナー

アジア国際ネットワークセミナーは、「貧困なき一つなるアジア共同体を目指して～アジアに理解と協力と連帯の輪をひろげよう～」をテーマに毎年開催し、2020年は10月23日～28日に第30回をスリランカで開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染の世界的流行のためやむなく中止した。

その代わりとして、下記の通りオンライン(ZOOM)による会議を2回実施し、AFS ネットワークメンバーのお互いの安否の確認と現況を共有することができた。

第1回オンライン会議(AFS Virtual Meeting on Covid-19)

日時: 2020年11月7日(火) 17:00-19:00(日本時間)
参加国: インド、ネパール、バングラデシュ、スリランカ、パキスタン、カンボジア、インドネシア、フィリピン、シンガポール、日本、以上10ヶ国
参加者数: 51名(報告者13名)
概要: 司会進行 AFS国際事務局 ジーナ・ヤップ事務局長
ご挨拶 ネットワークセミナー担当 西田 貞之理事
基調講演 村上 公彦 事務局長
各国のチャプターより現況・課題報告

第2回オンライン会議(AFS Virtual Meeting on Covid-19)

日時: 2021年2月25日(木) 17:00-19:00(日本時間)
参加国: インド、ネパール、バングラデシュ、スリランカ、パキスタン、カンボジア、インドネシア、フィリピン、タイ、シンガポール、日本、以上11ヶ国
参加者数: 51名(報告者13名)
概要: 司会進行 AFS国際事務局 ジーナ・ヤップ事務局長
ご挨拶 小原 純子 副会長
ネットワークセミナー担当 西田 貞之理事
村上 公彦 事務局長
各国のチャプターより現況・課題報告
2月8日(月)にインドで開催された地域会議の報告
ユース活動報告: ネパール レジマさん

(2) 国際ネットワーク機能強化事業

設立基本目標の一つである国際連帯を図るネットワーク事業。当事業推進ために AFS/ICO(国際調整事務局)を設けている。AFS/ICO は JAFS 事務局長を中心に、各国の部会(提携団体)から選出した8名の委員で構成して活動している。

前年度11月17日～21日バンコクにおいて財団設立準備委員会を開催し、2020年2月24日にアジアのビジネス関係者を招いてアジアフレンドシップ財団(AFFC)設立発起人会を開催する予定であったが、新型コロナウイルスの世界的流行により無期延期となった。

2020年度も新型コロナウイルスの世界的流行が続いているため、延期した。

(3) アジア・フレンドシップ夢基金

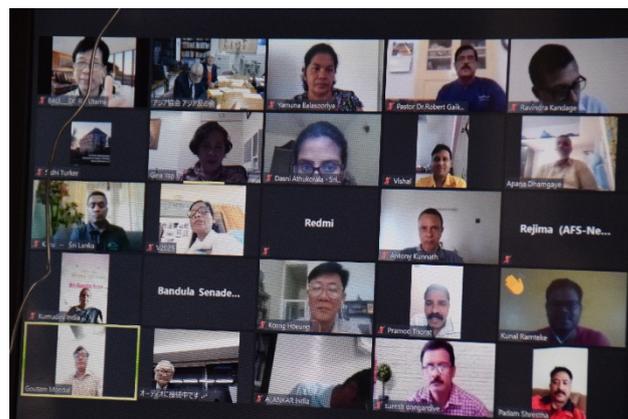
当基金は AFS/ICO(国際ネットワーク事務局)の事業の一環として本会のアジアにおけるネットワークの求心力を高めるために2008年に設立された国際基金。現在アジア8ヶ国の各部会が任意に参加している。

本会において国際基金は2010年から「夢基金」という名目で世話人会が発足。募金のための世話人会(代表 坂口久代理事)を設けて国際基金募金に協力している。

2020年6月23日、10月20日に世話人会例会を持った。(2020年度 募金高は405,076円)。

2. 国際体験交流(スタディツアー等)

アジアにおける本会海外プロジェクト視察や、アジアの現状に対して足を運び実感するスタディツアー等を通じて、国際理解文化交流の場を広く人々に提供し、本会の活動事業への理解と協力と連帯の輪を内外に広げることを目的とする。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。



AFS ネットワーク 初のオンライン会議参加者



AFS ネットワーク オンライン参加者と日本事務局

海外提携団体 AFSネットワーク

(18ヶ国 70団体 日本除く)

提携団体 (略称)	管理責任者	所在地	活動
1 インド			
1 BSVIA	N. クンバール	カルナータカ州ビジャヤプーラ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
2 EDCI	S.サンディシュ	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策、環境
3 ISSA	J.ザカライヤ	マハラシュトラ州プーネ	水、子ども、貧困対策
4 AFS Kolkata	A. バナジー	西ベンガル州コルカタ	水
5 SSH	B.セルヴァラージ	タミルナードゥ州ディンディガル	水、子ども、災害復興
6 RUDYA	K. デオガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
7 HDSI	P. ソラット	マハラシュトラ州アムラワティ	水、環境
8 JVK	アショク・トッポ	オリッサ州ブバネシュワール	災害復興
9 AMS	A.P.ポール	タミルナードゥ州マバルワペタイ	水、貧困対策
10 Don Bosco Ashalayam	Fr. ジョージ	デリー	子ども
11 Runa	ピーター・ベロ	ナガランド州コヒマ	水
12 AFS-Nagpur	P. ビシャル	マハラシュトラ州ナグプール	子ども、貧困対策
13 AFS-Akola	D. ダンラジ	マハラシュトラ州アコラ	環境
14 AFS-Rural Gacchiroli	D. パルサガデ	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
15 AFS-Gacchiroli	P. ソンタック	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
16 AFS-Saoli	B. アレワール	マハラシュトラ州チャンドラプール	貧困対策
17 AFS-Aramori	M. ヘポット	マハラシュトラ州ガッチロリ	貧困対策
18 AFS-Chhattisgarh	S.H.パッタン	マハラシュトラ州チャティスガー	貧困対策
19 AFS-Sanguli	クムディニ・ナシュテ	マハラシュトラ州ソラプール	子ども、貧困対策
20 AFS-Latur	ラジ・マホール	マハラシュトラ州ラトウル	子ども、貧困対策
21 AFS-Bangalore	カムレ	カルナータカ州バンガロール	子ども、貧困対策
22 IJSDC	ウノ・イクバル	カルナータカ州バンガロール	貧困対策
23 AFS-Lonara	タラチャン・カブセ	マハラシュトラ州ロナラ	水、貧困対策
2 インドネシア			
24 HOSANNA	E.サントサ	バリ島ケロボカン	水、子ども、貧困対策、環境、災害復興
25 AFS-Aceh	サラ・ジュマリア	アチェ州	環境、災害復興
26 AFS-Jakarta	B. ラバン	ジャカルタ	水、貧困対策、環境
27 Dhyana Pura 大学	マデ・ニヤンドラ	バリ島クタ	国際交流
3 韓国			
28 公州大学校産業科学大学	ユン・ジュン・サン	忠清南道礼山	国際交流
4 カンボジア			
29 KAFS	ロン・チョーン	プノンペン	水、子ども、貧困対策
5 シンガポール			
30 AFS- Singapore	エドワード・オング	シンガポール	国際交流
6 スリランカ			
31 SARVODAYA	A.T.アリヤラトネ	モラトゥワ	水、環境、貧困対策

7	タイ			
32	VITAL	K.スリサン	コンケン県マハサラカム	貧困対策
33	TAFS	ニラン・チャンタ	バンコック	子ども、国際交流
34	FON	サック・ノスリ	ナン県	子ども、貧困対策
35	ELF	チャイチェン	チェンマイ	国際交流
36	AFS-Chang Mai	チャイワット	チェンマイ	国際交流
37	AFS-Lampang	スラボン・パクディ	ランパン	環境
38	AFS-Udontani	サン・セン	ウドンタニ	国際交流
8	中国			
39	CHAFS	羅 紅光	北京	子ども、環境
40	AFS Hong Kong	調整中	香港	国際交流
41	AFS Uighur	ユスフ・エム・デオラ	ウルムチ	貧困対策、国際交流
9	ネパール			
42	HARD-EC	S.マナンダール	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境
43	AFS-Nepal(GreenScout Nepal)	ラジャン・M・マッラ	カトマンズ	水、子ども、貧困対策、環境
10	パキスタン			
44	PAFS	C.H.ナディーム	イスラマバード	水、子ども、災害復興
11	バングラデシュ			
45	AFS-Bangladesh	S. チョウドリー	チャンドラゴーナ	水、貧困対策
46	AFS-Dhaka	M.フェローズ	ダッカ	水、子ども、貧困対策、環境
47	AFS-Chittagong	I.チョウドリー	チッタゴン	国際交流
48	BDP	アルバート・マラカル	ミルプール	水、子ども、貧困対策、災害復興
49	AFS-BIWM	ムンスール・ラーマン	ダッカ	水、子ども、災害復興
12	フィリピン			
50	KALIPI	エロイサ・クナナン	ヌエバエシハ州サンレオナルド	水、貧困対策、環境、災害復興
51	AFS-Pandan	ネリ・サラビア・レクタラ	アンティーケ州パンダン	水、子ども、環境、貧困対策
52	AFS-Virac,Catanduanes	ランド・グロバット	カタンドゥアネス州ビラク	水、環境、災害復興
53	AFS-Manila	マラガ・アマンテ	マニラ市	国際交流
54	AFS-Zamboanga	エメリタ・バシリオ	南サンボアンガ州サンボアンガ	国際交流
55	Asian Social Institute	ミナ・ラミレズ	マニラ市	子ども、貧困対策、環境、災害復興
56	AFS-Davao Oriental	レイナルド・ギタカイ	東ダバオ州ダバオ・オリエンタル	国際交流
57	AFS-Ibajay	エミリー・アランゴテ	ア克蘭州イバハイ	子ども
58	AFS-South Antique	ビクター・デ・グラシア	アンティーケ州サンホセ	子ども
59	AFS-UMD	ジーナ・ヤップ	ソルソゴン州マトノグ	子ども、環境、貧困対策
60	AFS-Antique	ジェネロサ・コンデス	アンティーケ州	貧困対策、環境
61	AFS-Guimaras	ヴィック・デ・グラシア	ギマラス州	環境
62	AFS-Kabankalan	エライザ・ベルナオーラ	西ネグロス州	環境
63	AFS-Tacloban	ロウエナ・ロセ	レイテ島タクロバン	貧困対策、災害復興
13	ベトナム			
64	VAFS	ルー・バン・ロック	ホーチミン	貧困対策、子ども
65	Cantho 大学	ドン・バン・ニー	カントー	貧困対策
14	マレーシア			
66	AFS-Malaysia	リム・チャイ・ホン	ペナン	環境、災害復興

15	ミャンマー			
67	MAFS	ヤム・コーパウ	ヤンゴン	水
16	モンゴル			
68	MoAFS	エンフトヤ	ウランバートル	貧困対策
17	ラオス			
69	LPRYU	ワンペン・クンポーライ	ビエンチャン	水、子ども
18	アフガニスタン			
70	AAFS	ラハマツト	ジャララバード	貧困対策

2020 年度マスコミ掲載記事

毎 日 新 聞 2020年(令和2年)6月5日(金) 市内 大 阪 20

困窮留学生を支援
アジア友の会が募金

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、アルバイトができなくなったり、仕送りが止まったりして困窮する留学生を助けようと、NGOアジア協会アジア友の会（大阪市西区）が寄付金を募って支援する取り組みを始めた。最初に対象になった留学生4人にこのほど、支援金が贈られた一写真。対象になったのはバングラデシュから留学している日本語校生と専門学

校生の計4人。同会で1日にあった贈呈式では、藤原正昭常任理事が「少しでも生活が楽になり、勉強に励めるように祈っています」と話し、それぞれに3万円を手渡した。受け取った専門学学生のカン・アツアドナンさん（31）＝神戸市東灘区＝は、4月中旬から飲食店でのアルバイトが無くなったといい「助かります。受け取ったお金は家賃に充てたい」と笑顔を見せた。アジア協会アジア友の会は今後、アジア各国からの留学生に同様の支援を行うという。問い合わせは同会（06・6444・0587）。

【柴山雄太】

市内

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた国内留学生支援 毎日新聞 2020年6月5日掲載

2020年(令和2年)6月20日(土曜日) 言 説 寄 附 楽 所 展 望

インドの井戸整備に唐招提寺120万円寄付

水道整備が遅れているインドで井戸を作る活動を支援するため、唐招提寺（奈良市）は19日、公益社団法人「アジア協会アジア友の会」（大阪市西区）に、参詣者から託された120万円を寄付した。

森本孝順・元長老が同会の活動を知り、1998年から活動に協力。森本元長老が95年に亡くなった後も、境内に募金箱を置くなどして寄付を呼びかけてきた。

この日、同寺を訪れた小原純子副会長に、西山明彦長老が目録を手渡した。1

20万円を井戸2基を作ることで、これまで67基が完成したという。小原副会長は「インドでは貧困に苦しむ地域は今も多い。井戸ができれば、子供や女性が教育、生活向上に時間を使える」と説明。西山長老は「今後とも未永く協力したい」と述べた。

小原副会長（左）に目録を手渡す唐招提寺の西山長老（奈良市で）

唐招提寺より井戸2基の寄付譲渡式 読売新聞 2020年6月20日掲載

Ⅲ. 災害・紛争の罹災者に対する生活支援事業

Ⅲ-A. 災害等罹災者支援事業

1. 災害等罹災者支援事業

(1) ネパール中部地震 災害復興支援

AFS-Nepal ネパール中部地震 被災地復興支援

【シンドウパルチョーク郡インドラワティ G.P.10 地区(旧ボテンバ村)

2015年4月25日に発生した地震の被災地、被災者に対して、復興及びその後の持続可能な地域づくりを目指した支援活動を2020年度は以下の通り実施した。

1. 灌漑農業用水と安全な水確保のための完全な給水システムの設置
【集落用貯水タンクの設置】
 - ・フェロセメントタンク(容量1万2千リットル/1基)7基の設置
 - ・農業用貯水プールの設置:RCCタンク(容量3万リットル)1基とRCCタンク(容量2万リットル/1基)3基の設置
 - ・農業用貯水槽の設置:RCCタンク(容量2万リットル/1基)10基の設置【パイプライン接続】
 - ・揚げ水メインシステムと1-1、1-2、1-3を結ぶパイプの設置
 - ・減圧装置3基(Chandani-Jambu間のBreak Pressure tank(1千リットル)1基
 - ・Bhumithan-Aaitabare間の Interruption Chamber(1千リットル)2基)の設置

2. 水管理組合の強化

安全な水を常に供給できるよう、集落毎の水管理グループを組織化し、水質管理方法についての講習。

2-1. 水インフラ管理研修

- ・第1回目研修【3月4日 参加者22名】

集落毎の水管理グループメンバーと前年度に設立した水管理組合から選出されたメンバー、建設現場職員から成る研修受講メンバーに対しての衛生管理研修を行った。本事業により完成する水システムを運営するにあたり基礎となる、水質基準や保健衛生に関する知識をつけることで、安全な水の必要性と維持管理の重要性を理解する研修となった。

- ・第2回目研修【3月5日～7日 参加者各20、22、16名】

研修受講メンバーに対しての建材研修を行った。本揚水システム設置事業の全体像の説明から始まり、本システムに使用された建材の名称、機能、設置個所について学び、日々の点検、メンテナンス時に必要な知識を習得した。また、パイプライン接続の実践を行い、溶接技術を学んだ。完成したメインタンクを見て回り、学んだ建材の設置個所について確認することで、設備管理の基礎を身に着けた。

新型コロナウイルスにより、計画していた回数が半減した。その為、計画していた研修内容のうち、衛生管理及び保健衛生指導方法とシステムの管理に関する研修は行えたが、利用者の管理、電気の管理、ポンプエアの嘔み故障、揚水ポンプ呼称原因、揚水ポンプエア抜き方法に関する研修は実施することができなかった。

2-2. 日本の技術者による水インフラ管理技術指導及び設備検査
新型コロナウイルスにより、日本人技術者を現地へ送ることができず、実施することができなかった。

3. 農業生産向上による収入源獲得の基盤づくり

3-1. 農業組合の組織強化と管理技術研修

- ・第1回目研修【5月16日 参加者9名】

農業組合の9名に、当会の村事務所の実験農地にて栽培を行っていたトウガラシの苗を各家庭でテスト栽培を行うための栽培研修及び苗の配付を行った。

- ・第2回目研修【7月7日、8日 参加者15名】

農業組合の15名に、当会の村事務所の実験農地にて栽培を行っていたレモンの苗を各家庭でテスト栽培を行うための栽培研修及び苗の配付を行った。

- ・第3回目研修【10月6日 参加者18名】

農業組合の18名に、当会の村事務所の実験農地にて栽培を行っていたカリフラワーとキャベツの苗を各家庭でテスト栽培を行うための栽培研修及び苗の配付を行った。

- ・第4回目研修【1月11日～12日 参加者各17、9名】

現地政府農業機関職員を講師として、農業組合メンバーに対して実施した。冬野菜と夏野菜の栽培技術に関する講義、虫対策と病気対策とその管理方法、前年度に研修を行った苗床作りの復習と実践研修を行った。野菜の栽培技術に関しては、カボチャ、キュウリ、トウガラシ、トマト、ゴーヤ、ヘチマ、オクラ、ひょうたん、ダイコン、豆類、ホウレンソウ、ニンジンについて講義を行った。また、前年度よりご協力いただいている、日本の農業専門家の松川氏の動画を用いた研修を行った。動画研修では、松川氏のさつやま風景を撮影した動画を流し、特に馬を活用した農法について紹介し、荒地を持続可能な地域に変えていくまでの流れをインタビュー形式で上映したりすることで、家畜を用いた循環型農業についての意識強化を行った。家畜を用いた農業を学ぶことで、有機農業を基とした持続可能な農業を目指す一歩となった。

3-2. 野菜・果実栽培技術研修

- ・第1回目研修【3月11日～12日 参加者各16、18名】

現地政府農業機関職員の職員を講師として、農業組合を対象に実施した。前年度と今年度に苗を配布したレモン、マンゴー、ライチと、対象地域において自生するパイナップルについて、品種や栽培方法、病気についての基礎知識を習得した。現在、対象地域において自生する果実を有効に活用するための基礎となった。研修後、組合メンバーに第4回目研修にて講義を行ったキュウリ、ひょうたんの苗の配付を行った。

新型コロナウイルスにより、計画していた日本の農業専門家による、計画栽培技術に関する研修を実施することができなかった。

3-3. 家畜飼育技術支援研修

- ・第1回目研修【2月11日～12日 参加者各17、16名】

現地政府農業機関職員を講師として、農業組合メンバーを対象に実施した。豚、ヤギ、牛(水牛)についての基礎知識、疾病・駆虫対策や衛生管理、飼料の栽培や栄養価、家畜の糞尿利用についての研修を行った。研修後には、各農業組合メンバーを訪問し、家畜

Ⅲ. 生活支援事業

に関して抱える問題について指導を行った。家畜を労働力や収入源として利用する意欲を高め、次年度に行う予定である実際に家畜を導入しての家畜研修への興味が増す結果となった。研修後組合メンバーに、第4回目研修にて講義を行ったトウガラシの種子の配付を行った。

※本事業は、日本 NGO 連携無償資金協力の資金により実施。事業全体としては3年計画。2020年3月25日～2021年3月24日まで令和元年度日本 NGO 連携無償資金協力により2年目の事業を実施完了。2021年3月25日より3年目の事業を開始した。

(2) 東日本大震災 災害復興支援

JAFS 東日本大震災災害復興支援

【宮城県石巻市、名取市、女川市、南三陸町】

南三陸・女川をを訪れる復興支援スタディツアー

パナソニックグループ労働組合連合会主催で7回現地訪問スタディツアーを当初5月30日～31日の1泊2日で実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため開催を中止した。震災10年目を迎える2021年まで継続して実施していく予定。

(3) 新型コロナウイルス感染症対策支援

JAFS 国内留学生支援

【大阪、京都、兵庫】

日本滞在中のアジア諸国からの留学生の多くは、仕送りやアルバイトで日々生計を立てているが、感染拡大防止に伴い、働き先のレストラン等の営業停止実施により生活状況が困窮化しているため、留学生活の一部資金の一部としてサポートを実施した。

対象者：海外留学生(主にアジア諸国) 49名

(バングラデシュ、ベトナム、中国、インドネシア、モンゴル、エジプト、ロシア)

その他、食料を中心とした物資支援を会員や企業などより支援を受け、配布をおこなった。

海外支援 生活困窮者支援

【インド、フィリピン、バングラデシュ、ネパール、カンボジア、】

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴い、多くの労働者が職を失い、コロナウイルスだけでなく日々の食事さえ出来なくなった人々の生活困窮による命の危機を守るため、また、感染リスクを軽減するための衛生環境確保支援や啓発活動の実施を5カ国7団体の現地ネットワーク団体と通じて実施。弱い立場の人々、社会的・経済的に困難に直面している人々2055世帯、約11,000名へ以下の支援を行った。

- ① **インド (RUDYA)** : 米、小麦、油などの食料品やハンドソープ等の衛生用品配布(250世帯)・子どもたちの教育支援、地域の医療機関の運営支援
- ② **インド (HDSI)** : 現金とマスクなどの衛生用品・米や野菜などの食料配布(245世帯)、休業者保障(120名)、飲料水供給支援
- ③ **バングラデシュ (BDP)** : マスク、ゴム手袋、10日分の食料等の配布(100世帯)、スラム街の子どもたちの教育支援など
- ④ **ネパール (AFS-Nepal)** : フェイスシールドなどの感染予防キット、コロナ禍での洪水被害者(325世帯)への米などの食料セット・毛布や飲み水ろ過用フィルターなど、スラム街への食料配布(600世帯)・子どもたちへの教育

支援(100名)

- ⑤ **フィリピン (KALUPI)** : 米、缶詰、栄養剤などの食料及びマスクなどの衛生用品配布(100世帯)
- ⑥ **カンボジア (KAFS)** : 地域見守り支援
- ⑦ **パキスタン** : 貧困エリアへの食料品配布(15世帯)、教育用品支援

上記以外にも提携団体独自で、現地に求められる支援を各国、各団体で実施しており、AFS ネットワークを通じて新型コロナウイルス感染症の影響を受けた人々へ多くの活動が展開された。

※上記、ネパールへの支援の内15万円を「私と地域と世界のフアンド：みんなおんなじ空の下」基金より助成を受けた。

(4) 九州豪雨被災者支援

JAFS 熊本被災者支援

【熊本県南部】

人吉市(中神町大柿、矢黒町 等)

7月4日熊本県南部は記録的な豪雨が襲い、河川の氾濫により甚大な浸水被害を受けた。コロナ禍の被災のため直接救済支援の実施はせず、熊本地震支援の際に、復興活動を共に行ってきた益城町の方からの要請を受け、現地の活動グループを通して、浸水、倒壊した家屋などの復旧作業に必要な物資の支援を行うため、寄付募金活動、クラウドファンディング、企業への物資協力依頼等を行い、以下の支援を実施した。

- ① 募金による物資支援:
 - ・長靴 150足
 - ・越冬支援として毛布 36枚
- ② 企業より協賛支援を受けての物資支援
 - ・株式会社モンベル：レインジャケット 560着(16ケース)、女性用レインパンツ 320着(8ケース)
 - ・株式会社ジャックス：歯ブラシ 2万本
 - ・株式会社ニッカ：アルコール(消毒用)2缶
 - ・伊藤園：緑茶 24本×30ケース
 - ・メロディアン株式会社：濃縮スポーツドリンク 200袋
 - ・アサヒグループ食品株式会社：キャンディー(熱中症対策)12缶
 - ・アース製薬株式会社：消毒関係商品、アースジェット他防虫剤、蚊取りマット等多数 計30ケース
 - ・サラヤ株式会社：手指消毒アルコールジェル 1ケース
 - ・中西産業株式会社 (中西豊次様、奥村敏之様)：介護用大判ウエットタオル 80袋(2ケース)

(5) フィリピン台風ユリシーズ被災者支援

ASI フィリピン・台風災害緊急支援

【リサール州】

2020年11月11日～12日にかけて台風ユリシーズがフィリピンを横断し、特にルソン島で壊滅的な被害をもたらした。リサール州では多くの町が冠水し、約25,000世帯が避難生活を余儀なくされた。COVID-19の感染拡大と重なり、困難な状況にあるカルドナ町502世帯、アンゴノ町237世帯、ロドリゲス町74世帯、ピナンゴナン町25世帯、合計838世帯に食料(米・缶詰・ミルク等)と感染家族をまもるためのマスクやフェイスシールド、消毒液等の緊急支援物資の配布をおこなった。台風被害により田畑や漁場、家屋を失った人々の復興支援を次年度引き続きおこなっていく。

Ⅲ. 生活支援事業



ネパール地震復興支援 農業用貯水槽の建設状況



ネパール地震復興支援 苗床づくりに適する土づくり研修



新型コロナ支援 バングラデシュでの学校への物資配布の様子



インド スラム街の人々への物資支援と感染予防の講習



インド コロナによる生活困窮者、障がい者への物資配



九州豪雨 熊本被災者へ募金により贈った長くつ



九州豪雨 熊本被災者への集まった支援物資をパックにして配布



フィリピン台風ユリシーズ 被災者への物資支援の準備の様子

IV. 普及啓発事業

IV. 普及啓発事業

IV-A. 地域広報活動事業

1. 本部活動

(1) JAFSチャリティープログラム

例年、春と秋に住道駅前北側のデッキ広場で開催していたJAFSチャリティーバザールは、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

また例年、年末に開催のチャリティパーティ「アジアン・チャリティフェスティバル」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、縮小を余儀なくされたが、在関西のアジア人・留学生 67 名を含む 221 名の方々に参加いただき、第 5 回を開催した。アジアからの留学生・社会人をメインとした内容で、アジアを相互理解し日本人とアジア人が共生する社会づくりの一助となった。

<第 5 回アジアン・チャリティ・フェスティバル>

日時: 2020 年 11 月 29 日(日) 11:00~17:00

共催: 公益財団法人大阪国際交流センター

場所: 公益財団法人大阪国際交流センター

大会議室さくら(定員 200 名)、小ホール(定員 100 名)

参加者数: 221 名(内留学生(招待)67 名)

主な内容:

- ① 映画「セカイチオイスイ水」上映(小ホール)
- ② アジア 8 ヶ国の留学生、社会人による各国紹介のプレゼンテーション・パングラデッシュ出身の盲学校教員ビショップ・ロイさんの講演
- ③ アジア人留学生・社会人参加のパネルディスカッション「日本に住んで感じたこと」
- ④ 日本殺陣道協会・南京玉すだれ一座・他のアトラクション
- ⑤ 留学生との交流ゲーム大会

チャリティ成果:

収益の一部 10 万円をコロナで困窮する人々(アジア各国&留学生)の支援に寄付した。

実行委員会 6 月~11 月 全 10 回 開催

(2) 国際理解教育講座

NGO が学校や団体の研修の場に入り、相互理解・協力をはかりながら人材を育てていくことを目的に実施している事業。2020 年度も NGO 活動を通じた学校や団体の国際協力参加について様々な講義・研修を行った。

NGO 講師派遣 【のべ 12 ヶ所、501 名】

- 7 月 1 日 大精教看護専門学校 特別講義 (30 名)
「ネパール日本の関係、そしてアジアの医療・保健事情とその支援活動」
- 7 月 9 日 大精教看護専門学校 文化人類学特別講義 (30 名)
「ウイグル編」

- 7 月 10 日 大精教看護専門学校 文化人類学特別講義 (30 名)
「JAFS の活動と国際協力」
- 8 月 6 日 大阪府立藤井寺高等学校 (40 名)
「アジアの水支援と SDGs」
- 10 月 7 日 龍谷大学 国際ボランティア論特別講師 (30 名)
「水の問題と保健衛生～ネパールの事例から～」
- 10 月 12 日 大阪高齢者大学 国際文化交流科 講義
「アジアと共に生きる」(42 名)
- 10 月 14 日 京都西南ロータリークラブ
「コロナウイルス禍のアジアの状況」
- 10 月 16 日 寝屋川市民活動センター 講演
「SDGs と私たち」(30 名)
- 11 月 13 日 京都暁星高等学校 国際理解講演 (150 名)
「アジアの現状、国際支援の意義と私たちの役割」
- 11 月 14 日 近畿大学
SDGs 実践 コメンテーター参加 (35 名)
- 12 月 9 日 大手前高等学校 国際理解授業(集中セミナー)
(18 名+教員 1 名)
「NGO の現状と活動/私たちの暮らしと国際支援との相互性」
- 2 月 16 日 HAPIC(JANIC 主催) セッションのスピーカー
「地域で進める SDGs の実践～北海道、関西の事例から」 登壇者 (40)

(3) 国際ボランティア啓発活動

海外プロジェクト報告会の実施。その他、各地区にて支援事業の報告会などを随時実施。又月 1 回のぞうすいの会にて報告を実施した。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で総会時の海外プロジェクト報告会等の開催が実施できなかった。

(4) アジア文化理解講座

一般の人が国際協力を身近に感じられる催しを通じて、国際交流・支援活動への参加につなげることを目的としている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くのプログラムが中止または延期となったが、各地区では可能な形で随時開催した。

(5) 研修生・実習生受入プログラム

大学生インターンシップ及び実習受入

- ◆大学院 研修生受け入れ
①大阪大学大学院 公共サービス・ラーニング(1 名)
期間:2020 年 10 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

IV. 普及啓発事業

研修生: 太田朱里

実施内容: 身近にある共生の諸課題解決のために、JAFS の様々な分野の活動に参加し、研修をおこなった。

◆JAFS インターンシップ制度

JAFS の人材育成事業としてのインターンシッププログラムに以下5名が参加し、NGO 活動を学ぶと同時に、JAFS の活動への理解を深める機会とした。

内田郁子(関西学院大学)

知久平 瞳(同志社大学) 7月～実施中

岩崎明日香(神戸大学) 9月7日～実施中

鳥脇凌吾(同志社大学) 8月18日～実施中

野村梨帆(同志社大学) 12月2日～実施中

(6) 法人関連プログラム

本年は新型コロナウイルス感染拡大のため、いずれもセミナーの開催は実施しなかったが、アジアからの留学生支援の一環として、コロナ緊急支援留学生&支援者交流会を開催した。

(9) コロナ緊急支援留学生&支援者交流会 参照

(7) JAFS 社員クラブ

本年は新型コロナウイルス感染拡大のため、いずれもセミナーの開催は実施しなかったが、アジアからの留学生支援の一環として、コロナ緊急支援留学生&支援者交流会を開催した。

(9) コロナ緊急支援留学生&支援者交流会 参照

(8) JAFS アジア市民大学

JAFS 創立 40 周年記念行事の一環として、政治経済はもとより自然・社会・文化などについて多角的に、一味違うアジアを探究する場として、2019年1月に開学し、今年度は第2期。コロナ禍のため開講が9月となり2020年3月までに10回開催した。

*実行委員会は、4月、11月、12月、3月に開催した。

2020年9月12日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第1回「新時代が担う国造り-中央アジア(旧ソ連)の今日的課題」
講師: アジア経済研究所 名誉研究員 清水 學氏
参加者: 27名

2020年9月26日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第2回「シク教の特徴」
講師: 関西日印文化協会会長 溝上 富夫氏
参加者: 20名

2020年10月10日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第3回: 「中国の影響が強まるラオス・カンボジア」
講師: 東亜大学 人間科学部特任教授 西澤 信善氏
参加: 20名

2020年10月24日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第4回「中国の市-発達史・地域差・実態」
講師: 元奈良大学 学長 石原 潤氏
参加者: 17名

2020年11月14日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第5回「朝鮮時代の地図に描かれた日本(2)」
講師: 愛知県立大学 名誉教授 山田 正浩 氏
参加者: 15名

2020年11月21日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第6回: 「インドネシアにおける日系企業の経営」
講師: 日本・インドネシア経済協会 相談役 木下 一 氏
参加者: 16名

2020年12月12日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第7回: 「バングラデシュのマイノリティ」
講師: 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部
社会リハビリテーション学科 准教授 佐野 光彦 氏
参加者: 17名

2021年1月9日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第8回「ハノイ-発展途上のアジア型メトロポリス」
講師: 関西大学 文学部教授 野間 晴雄 氏
参加者: 13名

2021年2月27日(土)14:00-16:30 JAFS 会議室(ZOOM)
第9回: 「ベトナムから未来のアジアへ-想像から創造へ」
講師: 日越大学 客員研究員 桂 良太郎 氏
参加者: 21名

2021年3月27日(土)14:00-16:30 官報ビル8階
第10回: 「災害と感染症から見たインドの農村問題」
講師: 奈良大学 文学部教授 岡橋 秀典 氏
参加者: 17名

(9) コロナ緊急支援留学生&支援者交流会

アジアと日本の絆を深める活動の一環として、昨年開催した在関西のアジア系留学生対象の日本語スピーチコンテストを当初予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止し、その代わりにコロナ緊急支援募金により支援した留学生と支援者(会員・関係者)との交流会を開催した。

日時: 2020年9月27日(日)14:00-16:00
会場: クレオ大阪中央セミナーホール(大阪市天王寺区)
参加者: コロナ支援留学生 17名(バングラデシュ・ベトナム・中国・香港・ロシア)
支援者・関係者: 21名(内留学生団体関係3名)
内容: ①留学生スピーチ(日本で実現したい夢や希望)
②留学生と支援者交流会

(10) JAFS SDGs セミナー

SDGs は全世界が一丸となって達成する、全ての人が対象の目標です。JAFS が掲げている貧困なきアジア社会の創造は、安全な水の供給の目標6から持続可能な地域づくりを目指す活動です。再度私たちが何を大切にして活動するべきなのかを見直すと共に、行動推進が必要。実施するために国際協力、国際分野に関わっている専門家から SDGs の最も大切な部分を学ぶ機会として企画。以下をオンラインにて実施した。

第1回 1月21日(木)「SDGs と私たち」
講師: 岩崎 裕保氏 会員・関西 NGO 協議会監事/開発教育協会監事/元帝塚山学院大学教授

IV. 普及啓発事業

第2回 2月4日(木)「SDGs はなぜ国際支援活動を行う上で重要なのか？」

講師:大橋 正明 氏 聖心女子大学教授/JANIC 理事/
SDGs 市民社会ネットワーク共同代表

第3回 2月25日(木)「関西で行うSDGs 達成に向けた活動と展望 社会事業団からみたSDGs」

講師:佐和 宏士 氏 毎日新聞大阪社会事業団事務局長
「かんぼうがネパールで実施する地域おこし事業とSDGs」

講師:松原 正 氏 株式会社かんぼう 代表取締役社長

第4回 3月11日(木)「関西で行うSDGs 達成に向けた活動と展望」

講師:田和 正裕 氏 大阪大学特任教授/JICA 関西
(第5回「コロナパンデミックそして 国際協力 NGO/CSO の今後の在り方」4月1日(木)実施)

(11) JAFS グローバルコミュニティ・カレッジ (GCC)

【主旨】

「今、地球は危ない」をテーマに、グローバル化した地球で起きている環境破壊など様々な問題について解決の糸口を共に考える勉強会を2020年10月より毎月開催した。

期間:2020年10月～

日時:基本的に毎月第4金曜日 18:30~20:30

場所:JAFS会議室

参加者数:毎回5名程度

開催形態:講義形式ではなく、村上事務局長はじめ会員有志が、
発題者となり討論するゼミナール形式で行う。

内容:人類益・地球益という大きな視点で未来を考える。

第1回:10月30日 グローバル時代における連帯と地球運命
共同体理念」

第2回:11月27日 環境と開発の問題

第3回:12月25日 SDGsの課題

第4回:2021年3月26日 人間の安全保障の問題

第5回:次年度 格差と貧困の問題

第6回:次年度 生存と正義の問題

(12) 関連プログラム/その他団体協力

◆(特活)関西 NGO 協議会

加盟し、理事として運営に関わった。各種催しに出席及び協力活動を行った。特に、常任理事会(副代表理事)に関わり、調整業務にも協力した。

理事会/常任理事会 基本2か月毎の出席

KANSAI SDGs 市民アジェンダの事務局の役割として、分科会を実施し、関西地域においてSDGsの普及推進に協力。本年度は、NGO研究会の委託事業実施、「『新型コロナウイルス感染症拡大に対する日本の国際協力 NGO の対応戦略』のコーディネーターとして参加した。

同時に以下の3項目に関しても関西 NGO 協議会の役割を担っている。

- ① NGO-外務省連携推進委員:関西の NGO と外務省の窓口の役目を担うと同時に東京での会議に出席。
- ② 関西 SDGsプラットフォーム運営委員
- ③ ワンワールドフェスティバル for Youth の運営委員

◆(特活)関西国際交流団体協議会

1) 加盟し、監事として協力した。

2) ワン・ワールドフェスティバル: 第28回ワン・ワールドフェスティバルに実行委員会の一員として参加した。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため初のオンライン開催となった。

期間:2021年2月1日(月)~21日(日)

場所:ワン・ワールド・フェスティバル特設サイト(オンライン)

視聴数:43,000回

主催:ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会

テーマ:共に生きる世界をつくるために、一人ひとりができること

参加団体数:90団体

◆(特活)国際協力 NGO センター (JANIC)

正会員として加盟し、2019年より理事として運営に関わった。

特に正会員委員会、地方ネットワーク委員会の委員として実際の運営調整委員としての役割を担っている。

また今年度より JANIC 主催の HAPIC(2月16日)の分科会にスピーカーとして協力した。

◆関西国際交流ボランティアネットワーク会議 (KIV-NET)

加盟し、運営委員として協力活動を行っている。

◆認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォーム (JPF)

NGO ユニット参加団体として加盟し、緊急支援時の協力関係を持っている。2020度は助成申請を行わなかったが、熊本水害支援地への JPF を通じ企業よりの物資支援を得た。

◆近畿労働金庫 地域共生推進室

協力関係を持ち、生協などの講師登録を行ったが、2020年度は依頼が無かった。

◆一般財団法人 H₂O サンタ

2021年2月16日~22日 H₂O サンタ 第12回NPOフェスティバル(阪急百貨店 祝祭広場)に参加。活動出展、オンラインでの動画広報、チャリティ T シャツ販売協力、募金により井戸建設事業へと充てた。

◆日本環境法律家連盟 (JELF)

加盟し、10月22日(木)にオンラインで開催された「みどりの遺言」セミナーにビデオ参加協力した。

◆はじまるくんパソコン寄贈プログラム (オーグス総研)

パソコン10台の寄贈を本プログラムにより7月に得た。そのうち、ネパールとインドへ各1台現地へ届け活動に活用されるようになった。



アジアチャリティフェスティバルでの 留学生パネeldelカッション

IV. 普及啓発事業

2. 地区活動

各地域の地区世話人を中心に、本会の活動や理念の普及を計ると共に、アジアに「理解と協力と連帯」の輪をひろげることを目指し地域の催しにも協力しながら活動をした。

- 第 1 エリア: 大阪府北部、兵庫県東北部
- 第 2 エリア: 大阪府東部
- 第 3 エリア: 大阪市内
- 第 4 エリア: 大阪府東南部
- 第 5 エリア: 京都府、滋賀県
- 第 6 エリア: 兵庫県(一部大阪近辺を除く)
- 第 7 エリア: 奈良県、東大阪市、八尾市、和歌山県、三重県
- 第 8 エリア: 大阪府西南部
- 第 9 エリア: 西日本
- 第 10 エリア: 東日本
- 第 11 エリア: 東海、北陸・甲信越等

(1) 会員拡大・地区活動推進委員会

2020 年度も、昨年に引き続き地域の役員(地区世話人)を中心に、会員拡大・地区活動推進委員会を開き活動を進めていった。

◆会員拡大・地域広報活動委員会 計 3 回 のべ 21 名が参加
定例会: 7 月 28 日、9 月 15 日、10 月 20 日

◆地区会長会

11 月 7 日(土) 10:30-14:00

会場: 北京料理徐園

参加者: 第 1-8 エリアから 23 名(内会長 8 名)

内容:

- ① 卓話「JAFS 地区活動の意義と地区活動に期待すること」
村上公彦 事務局長
 - ② 各地区近況報告(工夫していること・課題など)
 - ③ 懇談会「これからの地区活動について」
- * 主な意見: もっと地区間の連携を図る。WEB 活用での交流も進める。フェイスブック等の SNS ももっと活用する。

◆新入会員ウエルカムパーティ:

8 月 1 日(土) 10:30-12:00

会場: JAFS 会議室

参加者: 16 名(内新入会員 7 名)

内容: 会員記章授与、JAFS 活動紹介、自己紹介 & 交流会

(2) 地区世話人一覧

エリア	地区	氏名
1	尼崎	黒谷侑子
	池田	石原基義
	吹田摂津	高田晃宏
	高槻	川上礼子、佐々寿子、榊田敏弘
	茨木	金井 英夫
2	守口	真田朱美、二野英子
	寝屋川	笠谷正博、菅原直樹、根津千枝子 畠山ひろみ

	枚方	明見睦子、天野由紀代、佐々木実、船戸康夫、 昆文彦、山下義照
3	なにわ東	奥 眞里子、杉本 牧子、濱崎佳尚、毛利吉男
	なにわ西	風早正夫、風早茂都子、篠塚達朗、福岡好嗣
	なにわ南	落合朋子、實 清隆、木 泰輔 出口貴之、中西豊次
4	河内長野	新谷百代、丸井和子、橋本洋一
	松原	橋本末子、谷岡康男
	富田林	沖田哲男、真嶋克成、春田希代子、渡辺治彦
5	京都市	安宅義人、辻 賢二、福井えり、柳井一朗
	八幡	福川 肅
6	三田	堀 正之
	西宮	平山隆史
	神戸芦屋	岩崎準一
	姫路	荒川鉄也、中尾和子、森 梢
7	生駒郡	林 昭宏
	生駒市	有山加代子、山田穂積
	奈良市	東久保勝彦、福岡名津子、渡邊瑠璃子
	八尾	橋本隆
	新宮	瀧野秀二、中西 洋
8	堺高石	佐藤満昭
9	広島	宇田和博
10	東京	川崎隆二
11	愛知	壁谷桂子、清水三千夫

(3) 第 1 エリア

【尼崎】黒谷侑子 【池田】石原基義 【吹田・摂津】高田 晃宏【高槻】川上礼子、佐々寿子、榊田 敏弘【茨木】金井英夫

5 月 5 日 中山寺子供フェスティバル中止

場所: 宝塚中山寺

7 月 7 日 豊中七夕まつり中止

場所: 豊中駅前

11 月 29 日 第 5 回 アジアンチャリティフェスティバル参加

場所: 大阪国際交流センター

高槻・島本地区 【JAFS 高槻】

今年度は、以下の行事を、清潔な水が得られないカンボジア農村の井戸基金に充てる費用を得る目的で実施した。

8 月 29 日(土) 14:30-17:00

第 4 回アジアン・ホームパーティ

「JAFS ネパールパイプライン建設プロジェクト報告 & 現地コロナ事情」 報告者: 中川寛子さん

会場: タジマホールエベレスト高槻店 1

参加 18 名

「南京玉すだれ教室」全 5 回

8 月 31 日(月)・9 月 14 日(月)・10 月 5 日(月)・10 月 19 日(月)

11 月 9 日(月)

会場: 高槻市生涯学習センター 受講者: 5 名

⇒11 月 29 日(日) 第 5 回アジアン・チャリティ・フェスティバル

にて、南京玉すだれ一座として披露する。

<定例会>原則毎月第 1 月曜日(13:30~15:30)開催

場所: 高槻市総合市民交流センター クロスパル

IV. 普及啓発事業

(4) 第2エリア

【第2エリア合同】

＜“JAFS 北河内 緑とふれあう会”＞
会長: 笠谷正博

4/04 ①サンチェの収穫 ②畝作り ③玉葱畝の草取り他 ※作業後総会 参加9
4/11 ①サンチェ、玉レタス植付け ②ほうれん草収穫 ③草取り他 参加10+(1)
4/25 ①じゃがいもの芽かき、追肥、土寄せ ②トマト畝作り ③玉ねぎ試掘 参加7
5/09 ①玉葱・空豆の収穫 ②植付け: トマト、オクラ、トウモロコシ、綿花 参加11
5/23 ①収穫: 玉葱、スナップエンドウ、そら豆、②(さつまいも畝の準備)他 参加10+(3)
6/15 ①さつまいもの植付け ②イチゴ撤去 ③草取り他 参加6
6/26 ①じゃがいもの収穫 ②枝豆種まき ③草取り他 参加8
7/18 ①さつまいも、枝豆畝の草取り、土寄せ ②周辺草取り他 参加6
7/26 ①じゃがいもの収穫 ②草取り他 参加7
8/08 ①草取り他 ②三度豆収穫撤去 参加11
8/22 ①草取り他 ②腐葉土投入土作り 参加9
9/12 ①大根、イチゴ、葉物野菜用畝作り ②枝豆、トマト収穫 ③草取り他 参加8
9/26 ①大根、カブの種まき ②枝豆、綿花、菊芋収穫 ③草取り他 参加7
10/10 台風による中止
10/24 ①さつまいも収穫 ②玉ねぎ用畝作り ③草取り他 参加10+4
11/11 ①玉ねぎ700本植え付け ②イチゴ、そら豆、エンドウ植付け 参加6
11/14 ①ミカン収穫 ②大根間引き ③イチゴ追加植付け 参加8
11/28 ①ミカン収穫 ②草取り 参加8
12/12 ①大根収穫 ②ミカン収穫 ③草取り 参加9
12/26 ①大根、カブ収穫完了 ②ウコン収穫 ③草取り 参加9
01/23 雨による延期
01/25 ①ジャガイモ用畝作り ②玉ねぎ周辺雑草取り 参加6
02/13 ①ジャガイモ用畝作り ②草取り、追肥 参加8
02/27 ①ジャガイモ植付け ②草取り、追肥 参加9
03/14 ①夏野菜用畝作り ②草取り、追肥 参加7
03/27 ①ツルムラサキ植付け ②草取り、追肥 参加7
本会が協賛協力している御殿山神社(御殿山公園)の“紫陽花”については有志による作業を実施した。

夏季(梅雨の時期)7月中旬～8月上旬の6日間「雑草、笹根の除去」35本の手入れ作業。

春季 3月の6日間「雑草、笹根の除去」50本の手入れ作業。

※定例農園作業は第2・第4土曜日 3～5月 8:00～11:00、6～9月 7:00～10:00、

10～11月 8:00～10:00、12～2月 9:00～12:00 天候・作物の状態・JAFS及び地区活動の関係等でやむを得ない場合変更あり。また臨時作業日もあり。

※有志による草刈り、生け垣の剪定、追肥、土寄せ、芽かき等多くの作業が随時行われている。

※ネパールでの農業支援事業、現地のテキストにこれまでの活動での作物の育て方を活かした内容を掲載する協力を行った。

※ブログ <https://blog.goo.ne.jp/midori-hureai>(または「JAFS 北河

内緑とふれあう会))

※当会の活動はどなたでもいつからでも自由に参加できます。

【守口】真田朱美、二野英子、橋口高明

予定していた活動が、新型コロナウイルス感染症の影響により全て中止となり、活動ができなかった。

【枚方】明見睦子、天野由紀代、佐々木実、船戸康夫、昆文彦、山下義照

7月26日 地区世話人会 南部生涯学習市民センター
8月14日(金) 【WEB】ひらかた NPO フェスタ 2020 動画撮影
於: ひらかた市民活動支援センター
地区世話人会
9月27日 地区世話人会 南部生涯学習市民センター
10月25日 地区世話人会 南部生涯学習市民センター
10月31日(土) 第16回枚方ティーサロン 参加者 27名
お話: 「ネパール支援報告」中川寛子
1月24日(日) 【web】ひらかた NPO フェスタ 2020
YouTube 配信
ネパールへ井戸を贈ることをめざして活動を行った。

【寝屋川】 笠谷正博、黒木隼彦、菅原直樹、根津千枝子、畠山ひろみ

8月9日 地区例会 場所: 市民活動センター 5名
10月10日～20日 市民活動センターふれあいフェスタ ポスター展 参加展示
10月11日 地区例会 場所: 市民活動センター 7名
10月16日 市民活動センター講演会 有志参加 6名
「SDGs」について 講師: 熱田典子さん
10月31日 枚方地区ティーサロン 有志参加 7名
12月13日 地区例会 場所: 市民活動センター 5名
2021年
3月28日 地区例会 場所: 市民活動センター 3名

(5) 第3エリア

【大阪市なにわ西】 沖本然生・沖本加代子・齋藤かおる・伊藤勝・新羅和子・篠塚達朗・風早茂都子・風早正夫・有山京子・澤野真樹

【2020年度総括】

まいど大阪おもしろウォーク、歴史散歩、はも鍋パーティ、フリマ開催等で、10万円の収入目標を立てていたが、コロナ禍で、2020.4-6、2020.12-2021.2 迄は活動停止。はも鍋等のイベント中止となった。年10回ほど開催していた例会も、今年度は7回に止まった。

6月2日 第1回例会 JAFS 事務所会議室
参加者: 8名 活動計画策定
7月7日 第2回例会 JAFS 事務所会議室
参加者: 6名
7月11日 「坂本を歩く」豪雨のため中止

8月18日 第3回例会 JAFS 事務所会議室 参加者: 7名 「坂本を歩く」9/19 復活、3/7 中止の「三国ヶ丘を巡る」を10/17 開催、11/21 「紅葉の三井寺を訪ねる」実施決定

IV. 普及啓発事業

9月19日	「坂本を歩く」実施。 参加者:16名 (収益 14,940円)
9月29日	第4回例会 JAFS 事務所会議室 参加者:7名
10月17日	「堺、三国ヶ丘ウォーク」実施 参加者:20名 その後自由意思の懇親会 実施。(収益 15,500円)
10月20日	第5回例会 JAFS 事務所会議室 参加者:6名
11月17日	第6回例会 JAFS 事務所会議室 参加者:6名
11月21日	「三井寺紅葉狩りウォーク」実施 参加者:17名 (収益 16,400円) (例年実施の忘年会中止)
2021年 3月9日	第7回例会 JAFS 事務所会議室 参加者:7名

【大阪なにわ南】中西豊次、出口貴之、木泰輔、實清隆

9月17日	なにわ南地区役員会 場所:JAFS 事務所会議室 参加者:4名
9月26日	バナナの茎から和紙製造研修 場所:インテックス 参加者:2名
9月27日	バナナの茎から和紙 見本持参 説明 場所:JAFS 事務所会議室 参加者:2名
11月19日	なにわ南地区役員会 場所:JAFS 事務所会議室 参加者:3名

(6) 第4エリア

【河内長野・大阪狭山市】渡邊喜久次、飯坂 保、今井利子、新谷白代、白井春夫、丸井和子

2020年 9月28日	地区世話人会 参加者:2名 場所:モダカ 今年はコロナの影響で活動が出来ないが、 来年は屋外での活動を実施し、親睦を深め ていく事を検討。
2021年 3月1日	地区世話人会 参加者:2名 場所:モダカ コロナ収束後の活動を考慮した会員拡大 活動を実施するため SNS の発信、声かけな どで地域との密着をはかることを検討。

【南河内・松原地区】橋本末子、谷岡康男

地域に住んでいる外国にルーツを持つ人たち(大人・子ども)の居場所づくりと多文化共生社会を目指して活動

7月25日	第1回子ども国際交流ひろば 場所:松原市立東小学校 参加者:60名
8月19日	ユース会議 ユーススタッフと7/25のイベント振り返り 場所:松原市立総合福祉会館 3階 参加者:12名
11月12日	エソダちゃん里子支援バザー&募金 場所:松原市立中央小学校 協力:中央小学校教職員(募金 10,320円)
11月18日	エソダちゃん里子支援バザー&募金 場所:松原市立布忍小学校 協力:布忍小学校教職員(募金 11,736円)

11月21日	第2回子ども国際交流ひろば 場所:松原市立松原第3中学校 参加者:140名
11月24日	エソダちゃん里子支援バザー&募金 場所:松原市立第3中学校 協力:松原第3中学校教職員(募金 15,363円)
2021年 3月13日	ユース会議 子ども国際交流ひろば”若者の集い” 場所:松原市立布忍小学校教室 参加者:ユース19名、スタッフ9名

★スタッフ会議は、ほぼ毎月、松原総合福祉会館にて開催。

★2020年度 JAFS 海外プロジェクト里親の会

ネパール里親の会 エソダちゃん「フレンドサポート」支援
コロナ禍で例年実施の第3中学校フェスタが中止となり、代わりに教職員に協力いただいた。

★広報活動 (アジ友ニューズレター発行、第6号(6月19日)、第7号(8月28日)、第8号(12月9日))

【富田林】沖田哲男、真嶋克成、古川光照、岡本修、春田希代子 渡辺治彦

2020年 4月2日	富田林地区役員会 役員調整、年間行事 計画打合せ 参加 沖田、古川(後日相談)、渡辺 場所:コロナのため電話にて対応
---------------	---

2020年度の行事については、コロナ対応のため全て中止

(7) 第5エリア

【京都・宇治・野洲・八幡】辻賢二、金井英夫、福井えり、柳井一朗、安宅義人、井上勇一、福川肅】

アジアの子ども達の教育支援を目的に下記の活動を実施した。

4月2日	京都地区会 コロナウイルスにより中止
5月3日	地球愛祭り in 京都出展 コロナウイルスにより中止
6月14日	京都ぞうすいの会 コロナウイルスにより中止 場所:洛西教会
6月26日	京都地区会 場所:洛南教会 参加者:9名
6月~3月	募金箱の設置 協力:10ヶ所
8月24日	京都地区会 場所:洛南教会 参加者:8名
10月5日	京都地区会 場所:洛南教会 参加者:6名
10月17日	京都チャリティウォーク「向日市竹の径を歩こう」 場所:向日市 参加者:17名
11月16日	京都地区会 場所:洛南教会 参加者:7名
11月21日	バザールカフェ フィエスタ参加 online
12月11日	京都地区会 場所:洛南教会 参加者:7名
11月~12月	シュートレンで子どもの教育支援! 協力:112口
2月18日	京都地区アジア勉強会 コロナウイルスにより延期
3月8日	京都地区会 場所:洛南教会 参加者:6名
3月27日	第4回 竹中真 京都チャリティピアノコンサート 場所:洛南教会 参加者:50名

IV. 普及啓発事業

(8) 第6エリア

【西宮】平山隆史

コロナ禍のため西宮国際交流デーのイベントは中止となり出展も見送りとなった。

【芦屋・神戸】岩崎準一、鈴木 誠也、戸田恭子

コロナ禍のため春咲縁日は中止となり、出展も見送りとなった。

【姫路】森 梢、荒川鉄也、中尾和子

3月のスプリングフェスティバル参加が唯一の活動になります。フェスティバルの方も物販、飲食禁止でフェアトレードの販売もできませんでした。荒川氏の個展を通し、広報活動を実施。

【三田】堀 正之、新城綾奈

11月21日 フレンドシップデイ(online 参加)

集客無しで交際交流協会が ZOOM で協会と学生、留学生との交流事業開催

11月29日

関学の途上国支援グループがアジアンチャリティフェスティバルに物品販売で出展。

(9) 第7エリア

【奈良県・東大阪市・八尾市・新宮市】渡辺昇、山下良一、有山加代子、小山裕子、沢田薫、井上美穂、野池徹、鈴木信克、山田穂積、伊藤ヒサ、堀内眞弓、前田乙美、林昭宏、渡邊瑠璃子、東久保勝彦、伊藤誠、和田達生、福岡名津子、嶋崎稜子、篠木精治、嶋崎貴行、古本靖久、古本みさ、坂口久代、橋本隆、日下千代子、龍野秀二、中西洋

- 2020年 奈良地区会 第1回会議
5月22日 どんぐり大作戦話し合い
場所:奈良市中部公民館 参加者:5名
- 6月10日 奈良地区会 第2回会議
場所:奈良市 参加者:11名
- 6月12日 生駒地区会初顔合わせ
場所:生駒市たけまるホール 参加者:16名
- 6月26日 生駒地区会 第1回会議
場所:生駒たけまるホール 研修室4
参加者:7名
- 7月10日 奈良地区会 第3回会議
場所:奈良市 参加者:11名
- 7月31日 生駒地区会 第2回会議
場所:生駒市ららポート会議室 参加者:6名
- 8月5日 奈良地区会 第4回会議
場所:奈良市 参加者:10名
- 8月28日 生駒地区会 第3回会議
場所:生駒市ららポート会議室 参加者:6名
- 9月4日 奈良地区会 第5回会議
場所:奈良市 参加者:6名
- 9月25日 生駒地区会 第4回会議
場所:生駒市ららポート会議室 参加者:5名
- 10月4日 生駒地区会 ドリアンチャリティフェスティバル IN まどか村
第1回フリーマーケット出店
場所:生駒市まどか村 参加者:5名
- 10月5日 奈良地区会 第6回会議
場所:奈良市 参加者:8名
- 10月30日 生駒地区会 第5回会議

- 10月22日 場所:生駒市ららポート会議室 参加者:6名
生駒地区会 ドリアンチャリティフェスティバル IN まどか村
第2回フリーマーケット出店
場所:生駒市まどか村 参加者:5名
- 11月9日 奈良地区会 第7回会議
場所:奈良市 参加者:8名
- 11月23日 奈良地区会 イベント
日 「どんぐりひろい&どんぐりクラフト」
場所:奈良市ならでんフィールド
参加者:40名
- 11月27日 生駒地区会 第6回会議
場所:生駒市コミュニティセンター
参加者:8名
- 12月8日 なららポートまつり会議 実行委員会
場所:生駒市コミュニティセンター
参加者:2名
- 12月4日 奈良地区会(反省会) :コロナで中止
2021年
- 1月20日 奈良地区会:コロナで中止
- 1月22日 生駒地区会 第7回会議
場所:生駒市ららポート会議室 参加者:3名
- 2月7日 生駒市ららポートまつり(ZOOM)
参加者:6名
- 3月11日 生駒地区会 第8回 LINE 会議
LINE でリモート会議 参加者:8名
- 3月14日 生駒地区会 ドリアンチャリティフェスティバル IN まどか村
第3回フリーマーケット出店
場所:生駒市まどか村 参加者:5名
アイビー歌声サロン 適宜開催
場所:生駒たけまるホール・喫茶パル

(10) 第8エリア

【堺市・高石市・和泉市】佐藤満昭

- 毎月不定期 佐藤手芸教室バザー
コロナ禍で高石フリーマーケットが大半中止となるも個人宅で小規模開催。
収益は年末募金、フィリピン災害支援等に寄付。
- 2021年 第2回チャリティ玉手箱展支援
1月10日~27日 新春チャリティ展として継続 22年目。
併設:期間内土日開催 個人ミニバザー
画廊収益金とミニバザー収益の一部を年末募金、ネパール井戸積み立てに寄付。
場所:堺市甲斐町ギャラリーいろはに

(11) 第9、10エリア

【関東活動委員会】岩田芳晴、川崎隆二、高岸康泰子、森山涼子、原 京、端無勝、佐藤理香、田中政直、河合典子、山本隆、井坂勝則、長谷川雅子、本間一将、田中壽美子
関東活動委員会(JAFS活動委員会)湯川理事長のご厚意により銀座キャビネットビルで活動委員会を行っている。
新型コロナ禍の中 Zoom 会議を案内したが、参加する人数が少なかつた。Zoom を使用してる人が JAFS 関東の中ではまだとても少ないのではないだろうか。現状では難しい。

IV. 普及啓発事業

篠原会長の Zoom 講演会は延期になった。年度初めに企画した他のプログラムも全てがキャンセルになった。

○委員会開催:2回 ○キャビネットビルの倉庫整理

○支援プロジェクト:日印友好学園バダトラ小学校の5人の里子支援

例年、グローバルフェスタへの参加、ウォーカーソン、チャリティーコンサートなどを中心に支援金を集めてきたが、今年度はすべてキャンセルとなり、支援金を得ることはできなかった。

また、次年度より里子支援金が値上げになるが、会員の高齢化とともに、またコロナ禍の中今までのような活動が難しい。支援金の縮小をせざるを得ない状況だ。

若い人の参加とコロナ禍を見据えた新規プログラムが次年度の課題。

3. 広報

(1) アジアネット

アジア各地で様々な支援活動を展開している本会の事業を、年4回発行の会報「アジアネット」誌面で紹介した。会員や寄付者などの支援者に「アジアネット」を送付するとともに、新たに本会を知る人を増やすべく、全国の国際関連施設の情報コーナーなど公開スペースに向けても送付した。またホームページ上でも公開した。

《アジアネット発行実績》

◆142号 2020年7月発行 (36ページ、4,500部)

- 表紙写真 ロックダウン下で生活必需品の買出しをするネパール・カトマンズの住民
- 巻頭言 コロナウイルス禍に考える
- 特集 新型コロナ禍の中で
- インド仏跡巡礼の旅①
- この人々に毛布を—インドの活動
- 井戸寄贈報告
- 2019年度の活動報告／2020年度の実施予定
貧困対策、環境、水、子ども、国際交流、罹災者支援、サイクル・エイド、国内での普及啓発
- 2020年度 社員総会報告
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 新・The 社会貢献 法人会員紹介
- 環境コラム、編集後記

◆143号 2020年10月発行 (32ページ、4,200部)

- 表紙写真 コロナ禍前、学校に新しくできた井戸を囲むバングラデシュの子たち。今はコロナで休校
- 巻頭言 外務省の経験を会長職に生かす
- 特集 新型コロナ禍の中で②
- インド仏跡巡礼の旅②
- 井戸寄贈報告
- ネパール2年目の揚水プロジェクト
- JAFSの10年後を描くビジョン
- 熊本の豪雨被災地へ支援
- JAFSプラザ 国内の活動
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 新・The 社会貢献 法人会員紹介
- 環境コラム、編集後記

◆144号 2021年1月発行 (28ページ、4,200部)

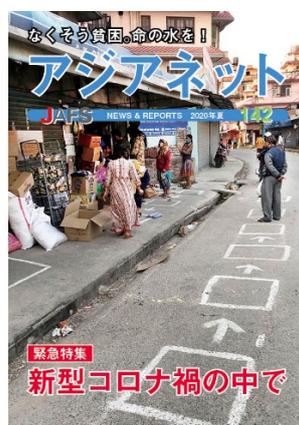
- 表紙写真 インドのチャイルドアカデミー新校舎が完成。

新型コロナの啓発活動が始まった

- 巻頭言 「いのちの水」にご参加ください
- 特集 新型コロナ禍の中で③
- スラムの子が学べる新校舎もうすぐ完成
- ネパール報告
- オンラインで国際ネットワークセミナー
- 「活躍するアジアン」(新企画)
- 井戸寄贈報告
- JAFSプラザ 国内の活動
- 集めるキャンペーンのお願い
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 新・The 社会貢献 法人会員紹介
- 環境コラム、編集後記

◆145号 2021年4月発行 (28ページ、4,200部)

- 表紙写真 新型コロナ下のフィリピンに台風襲来
- 巻頭言 コロナで貧しさ増す国へ支援を
- 特集 新型コロナ禍の中で④
- ネパールの村、リーダーたちにやる気
- サイクル・エイド新ステージへ
- カンボジアでの「贈水」活動継続へ
- コロナ下でできること、若者が討論
- 「活躍するアジアン」
- 井戸寄贈報告
- JAFSプラザ 国内の活動
- 新入会員ご紹介・領収報告
- 新・The 社会貢献 法人会員紹介
- 環境コラム、編集後記



第142号



第143号



第144号



第145号

IV. 普及啓発事業

(2) ホームページ/SNS

ホームページについては、画像の活用による発信情報の魅力向上、寄付・会費のクレジットカード決済までの導線改良、などを目的としてリニューアルした。またこれまで SNS として用いていたフェイスブックの他に、新たにインスタグラムと YouTube も開設した。これらにより、本会の活動状況、ニュースやイベント情報、アジア文化情報などを、随時更新し発信した。

<ホームページ> <https://jafs.or.jp>

<フェイスブック> <https://www.facebook.com/JAFS.NGO>

<インスタグラム> https://www.instagram.com/jafs_ngo/

<YouTube>

<https://www.youtube.com/channel/UCIlg56EEemMuMIFJyvRHxuEuQ/featured>

4. プロジェクト支援会 (ファミリーグループ)

(1) ぞうすいの会

(風早茂都子)

「ぞうすいの会」の「ぞうすい」は、「雑炊」「増水」「贈水」の意味をかねている。質素な雑炊をとることで自分たちの過食や健康を見直すとともに、「ぞうすいの会」への参加費を積み立てて、アジアの人々に井戸などを贈り、衛生的な水の供給を行ってきた。例年、毎月1回(年間11回※8月休み)開催してきたが、今年はコロナ禍の為、1回しか開催できなかった。アジア協会アジア友の会事務局から各国でのプロジェクトについての現状を聞きながら、季節の香り高い雑炊を頂いている。今後も、会員のみならずの深いご理解と温かいご支援を得ながら、活動を続けていきたい。

4月14日	第382回	コロナウィルスにより中止
5月12日	第382回	コロナウィルスにより中止
6月9日	第382回	コロナウィルスにより中止
7月14日	第382回	スピーカー:中川 寛子 「ネパールプロジェクト報告・現地コロナ事情」 参加12名
9月8日	第383回	スピーカー:坂口 優 「新型コロナ緊急支援基金・御礼と報告」 参加13名
10月13日	第384回	スピーカー:オクタピア 「コロナ支援留学生によるインドネシアのお話」 参加13名
11月10日	第385回	スピーカー:ダン・ディ・ゴック 「ベトナムの現況(コロナ事情他)」 参加12名
12月8日	第386回	コロナウィルスにより中止
1月~3月		コロナウィルスにより中止

(2) アジア井戸ばたサロン

(代表 澤村和子 顧問 小原純子)

『1990年「WINA2000」アジア国際女性会議』(小原純子JAFS副会長 企画実施)がインドネシアで開催された。これを機に1992年アジアの女性の地位向上に寄与するという目的で「アジア井戸ばたサロン」の活動を始めた。

「和」の心を基に、和紙を中心としたサロン独自の手作り作品、その他工芸品作りなどに力を入れ活動を続けている。作品も多彩となり成果を上げ、本年度も目的達成のために設立された「水がめ基金」から「JAFS里親の会」に例年通りの支援をした。さらに毎年アジアで行われている「アジア国際ネットワークセミナー」(AINS)での参加者プレゼント用の手作り作品の製作を続けている。だが今年度は、昨年度に続くコロナ禍の世界的な自粛のため、開催されず、残念ながら協力もできていないが、次に向けて製作活動は継続している。

<活動>

- ペーパークラフトを主に手作り工芸品の製作
(季節のカード・色紙・メモ帳・箸袋・香袋など)
- ・毎週火曜日 午後1時~3時

(3) スリランカ・サルボダヤ友の会

(代表 小澤 勇)

スリランカ現地提携団体 NGO「サルボダヤ」との絆を深め、農村開発運動を支援し活動の輪を広げることを目的とする。スリランカを知り、楽しむイベント・講座等を開催や、活動支援のためバザー等に出展し、様々なボランティア活動をおこなっている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が制限されたが、メール等で情報を共有し、農村開発活動とともに井戸1基の建設を支援した。

(4) 日印友好学園支援会

(支援会会長 柏木道子) 支援会メンバー:11名

2020年度は、日印友好学園コスモニケタンの運営を引き続き支援した。

コロナ禍の中、先生方による SNS を通じた授業が行われた。しかし電話や電波のない地域においてはグループ授業が行われた。州政府の指示に従い学校での授業は一度も行われていない。コスモニケタン学園の運営状況においては、里親の数も減少傾向にあるために、支援額も減少した、現場での収入確保がさらに厳しい状況になった。コスモニケタンの自立に向けて現地とともに取り組んでいる。支援会開催10月9日 参加者11名

(5) JAFSネパールへのかけ橋

(代表 岡田光浩 書記 渡辺治彦/長 克宣)

ネパールをこよなく愛する者を参加資格とし、JAFSのネパールでの活動の支援を目的とし2000年に発足する。

活動のテーマは、「ネパールの子供たちの支援」。2003年度より、冬季ワークキャンプ(バイオガス建設ワークキャンプ)の自主活動を継続し、バザーによる資金調達・現地でのボランティアワークなどを行ってきた。原則として、毎月1回(第2土曜日17時~)例会を行ってきた。今年度の活動内容は以下の通り。

今年度の活動内容は、ネパ橋結成20周年を契機として広くネパールに興味を持っていただけのような、各種イベントの企画等を検討していましたが、コロナ感染拡大による緊急事態宣言などにより実現できず、ネパール支援のための資金確保に向けた各種バザーも中止となるなど思うように活動ができな一年となりました。

IV. 普及啓発事業

また、継続的支援として里親の会を通して、ピトゥリ村の元里子で身体障害をもつフルマヤさんの自立支援を実施しています。次年度は、引き続き新型コロナの影響による活動の影響が懸念されますが、広くネパールに興味を持っていただけるように、各種イベントの実現に向けた取組とネパールのコロナ支援のためのチャリティーCD「MAYAJAND(ネパールバンド:KUTUMBA&サクソ奏者:清水利香)」の販売支援の実施など魅力ある活動となるように、検討を進めていきたい。

4月 11日	例会	コロナにより中止
5月 9日	例会	コロナにより中止
6月 20日	例会	(6名)※Zoom参加(中川さん)
7月 10日	例会&萱森里山イベント「里山で馬と共に実現する循環型社会」に参加勉強会	(10名)
8月 8日	例会	コロナにより中止
9月 12日	例会	(6名)※Zoom参加(ネパールより参加:ビマラ)
10月 10日	例会	(5名)
11月 14日	例会	(6名)
12月 12日	例会	(6名)
12月 15日	例会・忘年会	(6名)
1月 16日	例会	Zoom会議 (4名)
2月 13日	例会	Zoom会議 (5名)
3月 13日	例会	(6名)※Zoom参加(一ノ瀬さん)

(6) PAON

(代表 谷阪洋子)

アジア家庭料理教室の参加者の中から有志のメンバーが集まり、料理を活かしたボランティア活動を行っている。アジア各地の料理を通じて、各地域の文化を体験・理解することと、その活動の中で、必要とされる支援を行っていく事を目的としている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が制限されたが、アジアで安全な飲料水を必要としている地域への支援を目標に活動した。

(7) JAFS オアシス会 (中国教育医療支援会)

(代表 ジャミラ ウライム)

オアシス会はアジアの中に“理解と協力で連帯”の輪を広げるといふ JAFS 基本理念をすすめていくために、シルクロードを中心に相互の国の文化や歴史を学び、お互いに尊重し、理解し合う場を創り出すことを目的とする。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動が制限されたが、メール等で情報共有・意見交換をおこなった。

(8) アジアネットワーク奨学会

(代表 古賀 旭)

アジアネットワーク奨学会は、専門職を通して将来アジア社会の発展や人々の福祉の向上に大きく貢献するとみなされる若手の人材育英資金(奨学金等)を支給するための支援会である。2020年度は、フィリピンのアジア社会科学学院(ASI)の地域開発コースの開催が新型コロナウイルス感染症の影響によりなかったため支援者対象がなかった。インドの現地提携団体の HDSI の後継者である Mr. Gaius Thorat のナグプール大学社会開発学科の学費を1年間支援した。

(9) ネパール子ども夢基金

ネパールのこどもたちが「夢」そして「希望」のあふれた未来作りができるよう、様々な体験を通じた成長を目指す子どもたちの教育支援。会員として支援者を募ると共に、子ども環境セミナー実施が新型コロナウイルス感染症の影響で実施できず、テキスト配布の支援を行った。

(10) ネパール地域医療支援会

(担当理事:小原純子副会長)

ネパールの農村エリアの地域医療向上及び母子保健向上をサポートする支援会。

今年度は、山間地の女性たちの生理用布パッドを手作りで作る活動を引き続き実施し、新型コロナの感染状況を見ながら事務局でまた自宅などでの作成によりネパールでのナプキン作成につながる準備を行った。また支援金のために引き続きプルトップ回収をおこなった。

(11) サイクル・エイド支援会

「放置自転車を再生し、世界の子どもたちに贈ろう!」を合言葉に誕生したサイクル・エイドは、放置自転車を府内市町村の協力のもと、修理、再生し、海外の子どもたちに贈る事業。子どもに自転車を贈ることで、教育環境の向上につながり、環境にやさしい貴重な移動手段として、地域の福祉環境改善のために再生自転車を有効利用している。自転車を通じた国際交流の絆を深める目的を進めていくためにサイクル・エイド支援会を設立。様々なイベントでの広報活動や自転車を輸送するための寄付協力を募っている。

(12) JAFS パーラト会

(代表 巽 正憲)

毎月第3火曜に例会を開催し、インド国歌を歌い、ヒンディー語を勉強しインドの歴史、文化、最近のインドについて学習している。時には、外部講師も招き、インドについての理解を深めている。

インド映画やイベントの情報交換も行っている。

今年はインドパーラト会設立5年目に当たり、5周年記念イベントを予定していたが、コロナ禍、8月25日にJAFSの会議室でメンバーが集まって、お祝いをし、また皆で記念誌を発刊した。

また、11月にはJAFSイベントに協賛した

例会: 6月16日、7月14日、7月21日、8月12日、
8月25日:5周年記念集会
9月15日、10月20日、11月17日、
8回の例会等で、延べ78人が参加。

(13) JAFS 歌声サロン

(代表 風早茂都子 演奏 有山京子)

ピアニスト有山京子の伴奏をバックに、その場でリクエストをし、好きな歌を歌い、腹式呼吸法で健康増進にもなる。日頃のストレスを発散しながら、国際貢献をする自主活動グループ。2016年度から、活動を開始し、今年度は参加費の一部をインド子ども教育支援(インド、ナグプール県のチャイルドアカデミー)、アジアフレンドシップ夢基金へ寄付を行なった。

IV. 普及啓発事業

また、今年度から JAFS カラオケと合同で例会を持った。
例会： 6月9日、7月14日、9月14日、10月13日、
11月10日
4月、12月～3月はコロナで中止。
のべ32名が参加

(14) JAFSワンコインセミナー

(代表 有山京子)

2019年度より始めた英会話以外に健康講座、椅子ヨガ、金融の話等

ワンコインセミナーは沢山の講師の先生をお招きして、広範囲に及ぶセミナーですので、多くの情報を得られるチャンスです。

会費の一部はインド子ども教育支援への支援とする。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動が出来なかったが、コロナ終息後活動を再開予定。

(15) JAFS旅人(たびんちゅ)

(代表 有山京子)

旅の好きなものが集まり、折々の季節を楽しみながらチャリティ企画で旅をしています。会費の一部はアジアフレンドシップ夢基金に寄付予定。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動が出来なかったが、コロナ終息後活動を再開予定。

(16) JAFSいのちの会枚方

(代表 明見睦子)

関西外大生とフリマ(竹で手作り流し素麺、手相等)や街頭募金活動を実施。HIV 勉強会、FM 枚方への出演などにより、楽しく活動をし、インド タミルナドゥ州の HIV AIDS に苦しむ2家族への支援を目的におこなった。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を行えず予定の支援金の準備もできない状況であった。

(17) 留学生コミュニティ

～Design the Community～

留学生と日本の学生が交流し、互いに支え合うことができる社会、コミュニティを目指して Design the Community を11月1日に設立。

留学生に日本社会の情報を手軽に、日本人に国内にいる留学生の存在、情報を手軽に得ることができるようInstagramを通して情報発信を行っている。また、2021年4月実施予定のオンラインにて交流イベントを実施に対して互いの中を深めるための準備をおこなった。

5. 関連市民活動

(1) 関西ナショナル・トラスト協会

(代表 山竹 継男)

事業期間:2020年4月1日～2021年3月31日

事業の内容:次世代に残す自然文化(京都市南丹市美山町にある「美山楽舎」の活用、新淀川河川敷での環境活動(しじみ採り)などを通じて、地方の活性化、都市部の青少年の育成を行うことを目的とする。

(1)自然環境保全事業

内容:本年度の活動は、コロナ禍のため会員及び一般に呼かけて実施することは制限された。

●5月10日 美山楽舎の圃場にて2020年度田植えの実施(大内区との協議で5名のみ参加)

●6月6日 美山ベニバナヤマジャクヤク鑑賞会⇒中止

●6月14日しじみ獲り(新淀川河川敷)⇒中止

●2021年3月 第8回美山土と水と緑の自然学校⇒中止

(2)保有・管理財産活用事業

内容:京都府南丹市に保有する「美山楽舎」の土地・建物を会員及び一般に有料で貸し出し、築160年の古民家、周辺の圃場での体験を通してナショナル・トラスト運動の意味を考えてもらう。

(4)農林漁業生産支援事業

内容:農山村地域の行事に積極的に参加する予定であったが、今年はコロナ禍のため、集まることは制限され、会員や一般の皆さんに声掛けもほとんどできなかった。

●5月24日 美山町大内区「奥庵堂」お参りと日役に参加

●2月7日 美山神谷区 雪祭り⇒中止

(2) 日本を良くする会 (Make Japan)

(代表:萩尾千里、大阪グループ代表幹事:橋口高明)

本会の国際協力フィードバック事業の一環として、本会会員有志が主催する市民の会。活動目的は、「世界から尊敬されかつ信頼される国(社会)づくり」。日本の望ましい社会像、あるべき人間像を求めて、以下の諸活動に参加する創造的市民の会を目指している。発足は2006年12月。

<年間を通じての基調テーマ>

1. 憲法改正の論議(終戦時 GHQ による押しつけ憲法に由来する)
2. 外交・防衛関係(対中、対北、対韓、対露)など周辺諸国との摩擦
3. 国内政官界の衰弱と綱紀の弛緩
4. 国内の社会時事問題
5. 会の運営方針
6. その他

<2020年定例会>

新型コロナウイルス感染症の影響により活動を一時中止した。

IV. 普及啓発事業

IV-B. 環境保全・環境教育（国際グリーンスカウト活動）

（1）土と水と緑の学校

次世代の子どもたちが、地球の基本である土、水、緑の自然の大切さ・役割を体で感じ取って学ぶ自然環境教育プログラム。山と川と海に囲まれた和歌山県新宮市高田で、子どもたちがリーダーと共に各寺子屋を5泊6日で例年開催し、今年は「第36回土と水と緑の学校」を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

（2）美山 土と水と緑の自然学校

本プログラムの特徴は、「農村と都市の交流」である。自然体験だけでなく、農村に暮らす人々との交流を通し、森林の活用、身近にある自然・文化と生活のつながりなど、自然を大切にすることの意味を学び、自然や周りの人々など多くのものに支えられていること、そのつながりを実感することで他者や自然を思いやる心を育てることを目的としている。

第8回 美山「土と水と緑の自然学校」は、2020年3月下旬に、京都府南丹市美山町大内地区にて開催する予定であったが、昨年に続き、今年も新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

（3）各部会活動

国際グリーンスカウト運動とは「Think Globally, Act Locally(地球規模で考え、地域で行動を)」をモットーとした「地球市民による地球環境保全活動」を目指す本会提唱のプログラムである。AFSの海外ネットワーク(インド、スリランカ、フィリピン、ネパール、タイ)を通じて国際的に展開している。国内でも、このモットーに基づき、各地でグリーンスカウト隊が活動を行なっている。

◆国際グリーンスカウト大阪◆

活動内容

年間を通して京都府南丹市美山町にて農業体験を実施、集落支援活動を通じて、青少年環育活動を行った。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が中止となった。

◆国際グリーンスカウト吹田◆

(主なメンバー:杉原貴、雨森清忠、越智久美子)

地球規模で環境保全を考え、そのために自分たちの住む地域で出来ることをやっというグリーンスカウトの理念を実現するために、2001年に京都府美山町で行われたグリーンスカウトの国際大会で知り合ったメンバー同志で活動チームを結成。環境保全活動およびその教育の持続と実行のため、2003年より毎月第1土曜日に吹田市の糸田川の清掃を月1回行っている。2004年より2021年3月までのゴミの総量は2263.5kg、延べ参加人数790人。

2003年より、毎年7月には子どもたちを連れて無人島でキャンプを行っているが今年は新型コロナウイルス感染リスクを考慮し、中止とした。

<糸田川清掃、環境保全活動>

毎月一回、基本的に第一土曜日に30分ほど実施。

参加人数は平均3人。

2020年度実施日:4月4日、6月6日、7月4日、8月1日、9月5日、10月3日、11月7日、12月5日、2月6日、3月6日



糸田川の清掃を終え、その日のゴミの前で(GS吹田)



グリーンスカウト-JAPAN マーク

IV. 普及啓発事業



地区長会 11月7日開催



松原地区外国にルーツを持つ子どもたちとの話し合い



高槻地区アジアンパーティー



枚方地区会 元JAFS ネパール駐在員中川さん報告会



奈良地区 どんぐり拾い&どんぐりクラフト教室



北河内緑とふれあう会活動の様子 玉ねぎの収穫作業



京都地区チャリティウォーク「向日市竹の径を歩こう」



姫路地区 荒川氏の個展活動を通しての広報活動

IV. 普及啓発事業



バーラト会 5周年に集まったメンバー



第2期アジア市民大学開催の様子



留学生コミュニティ立ち上げ会議の様子



ネパールへのかけ橋 ネパールともオンラインでつなぎ例会



第385回ぞうすいの会ベトナム事情を説明するダン・ティ・ゴックさん



京都地区 チャリティピアノコンサート



寝屋川地区・枚方地区懇親会&吉田幸子さん感謝会



富田林地区 ネパール学校建設支援費寄贈式(理事会にて)

V. 運営管理

V. 運営管理

V-A. 社員総会

公益社団法人アジア協会アジア友の会第9回社員総会を下記の通り開催した。定款第16条の定めにより萩尾会長が議長となり議事を進行した。現在の社員数208名の内、出席社員数140名（内、オンライン出席6名、書面評決者及び評決委任者111名を含む）であり、過半数に達し、総会は適法に成立していることを宣した。

日 時：2020年6月13日（土） 午後2時～3時

会 場：肥後橋官報ビル8階会議室

議 案：I. 決議事項

第1号議案『役員の選任』の件

第2号議案『2019年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、
同附属明細書及び財産目録承認』の件

第3号議案『ビジョン委員会からの提案の承認』の件

上記の決議事項に関して、異議なく承認された。

V-B. 役員一覧

役 職	氏 名	経 歴
会 長	篠原 勝弘	公益財団法人CIESF 理事兼カンボジア代表、元 駐カンボジア特命全権大使
理 事 長	湯川 剛	株式会社OSG コーポレーション 代表取締役 会長・CEO
副 会 長	小原 純子	一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会 前理事長、現名誉顧問
	櫻井 紘哉	元 株式会社三和銀行管財部長、（学）芦屋学園 理事
	法花 敏郎	元 株式会社朝日ビルディング 代表取締役社長
専務理事 事務局長	村上 公彦	日本基督教団 寝屋川教会 牧師（本会創設者）
常務理事	富松 英二	元 三菱電機株式会社 通信機製作所 開発管理担当部長
常任理事	池田 直樹	あすなろ法律事務所 弁護士
	井上 勇一	日本キリスト教団 洛南教会 牧師
	上野 孝一	寝屋川十字の園 施設長
	沖田 文明	特定非営利活動法人関西ナショナル・トラスト協会 副代表理事
	金井 英夫	元 日本アイ・ビー・エム株式会社 コンサルタント事業部ソリューションコンサルタント次長
	齋藤 公代	元 大阪北生協機関紙むつみ・タウン誌ライブタウン編集長
	實 清隆	奈良大学名誉教授
	西田 貞之	有限会社西田興産 代表取締役 元大阪府職員
福澤 邦治	パナソニックグループ労働組合連合会 中央執行委員長	

V. 運営管理

	藤原 正昭	行岡保健衛生学園 顧問
	松原 正	株式会社かんぼう 代表取締役
	吉田 俊朗	元 ユニチカ株式会社 監査役
	米田 明正	株式会社グローアップ 代表取締役
理事	熱田 親憲	NPO 法人ネパールロードを支える会 理事長
	栗村 壽子	有限会社天王寺英数学院 代表取締役
	坂口 久代	関西イタリア語文化センター 代表
	田中 久雄	元 株式会社かんぼう 代表取締役
	佐藤 正隆	リタワークス株式会社 代表取締役
	バ木 泰輔	エーゼル株式会社 代表取締役
	寺西 浩章	(宗) 家原寺 住職
	永島 智子	イオングループ労働組合連合会 会長
	新田 香織	近畿大学非常勤講師 元同大学総合社会学部 教授
	古谷 裕子	北港運輸株式会社 代表取締役
	宮野谷 篤	株式会社 NTT データ経営研究所 取締役会長
	森本 榮三	森本グリーンサービス 相談役
	監事	出口 貴之
毛利 吉男		株式会社カステロ 代表取締役
山下 泰之		元 東邦金属 株式会社 常勤監査役

(2021年3月31日現在)



第9回定期総会

V. 運営管理

本会の事業・活動は、理事会及び各常置委員会によって管理・運営されている。2020年度における理事会、各委員会の開催状況は以下の通り。

V-C. 理事会

(議長:5月萩尾千里会長、6月以降 篠原 勝弘会長)
理事会: 5月、9月、12月、3月 (計4回開催)
原則として第4火曜日に実施。

V-D. 常置委員会

I. 公益目的事業I 開発支援事業委員会

2020年度は、開発支援事業の進捗状況の確認、課題提示、プロジェクト評価、報告などを実施。2021年度新規事業の審議を実施。

委員長:福澤 邦治理事
副委員長:米田 明正理事
委員:小原 純子副会長、富松 英二理事、森本 榮三理事

<事業内容>

1. 水事業
2. 子ども事業
3. 貧困対策事業
4. 環境事業
5. サイクル・エイド事業

開催日:5月、9月、12月、2月、3月(メール会議) 計5回実施。

II. 公益目的事業II 国際交流事業委員会

国際交流事業の進捗状況の確認、報告などを中心に行なった。各事業ごとに実行委員会を持ち、円滑にプログラム運営を実施。

委員長:西田貞之理事
委員:坂口久代理事
<事業内容>

1. 人材交流・育成事業
2. ネットワーク推進事業(アジア国際ネットワークセミナー、ユースサミット)
3. アジア・フレンドシップ夢基金

開催日:7月、10月、2月、3月

10月23日~28日に第29回アジア国際ネットワークセミナーをスリランカで予定していたが新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期し、オンラインによる交流会を2回実施した。(第1回11月7日(10ヶ国51名)第2回2021年2月25日(11ヶ国30名))

III. 公益目的事業III 生活支援事業

2020年度は、以下1~5の支援事業決定事項や進捗状況について協議。また、年度途中で新型コロナウイルス感染症対策支援、続いて、九州豪雨被害者支援、フィリピンでの台風被害を受けて緊急支援依頼が現地より着たことで、その対応に関して協議した。

委員長:藤原正昭理事
副委員長:松原 正理事
<事業内容>

1. ネパール地震災害復興支援事業

2. 東日本大震災支援事業
3. コロナウイルス感染症対策支援
4. 九州豪雨被災者支援
5. フィリピン台風被災者支援

開催日 4月、7月、10月、12月、3月(メール稟議を含め 計5回実施)

IV. 公益目的事業IV 普及啓発事業

事業項目別に担当理事を中心に委員会が開催された。
<事業内容>

1. 広報企画委員会(法花敏郎委員長)
アジアネット編集とHPリニューアルを中心に開催。
開催月:4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月、2021年1月、2月、3月 計12回開催
2. 会員拡大・地域活動推進委員会(齋藤公代委員長)
地区世話人とともに活動していく仲間(会員)の輪を広げる活動を推進した。
会員拡大・地域活動推進委員会:7月、9月、10月
地区会長会:11月
3. 企画事業委員会(沖田文明委員長)
住道バザー、土と水と緑の学校、熊野塾は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。第5回アジア・チャリティ・フェスティバルは11月29日に大阪国際交流センターにて開催した。
委員会:7月、9月、11月、12月、2月
4. 国際理解・文化事業委員会(實 清隆委員長)
アジアを身近に感じ理解し、活動を応援する人々の育成と支援の輪を広げる活動を推進した。
開催月:7月、9月、11月、12月、2月
5. SDGs活動委員会(松原 正委員長)
今年度新設の委員会。SDGsの理解と活動推進を行うために、SDGsオンラインセミナーの企画実施を行った。
開催月:11月、12月、1月、3月 計4回実施。

V. 特別委員会

1. 政策審議委員会

委員長:井上勇一理事
委員:篠原勝弘会長、實清隆理事、柴村壽子理事、田中久雄理事、寺西浩章理事、永島智子理事、古谷裕子理事、宮野谷篤理事、熱田親憲理事
開催月:9月、12月 計2回実施。

2. 経営企画戦略委員会

40周年記念のビジョン委員会の内容を受け継ぎ、次なる10年の活動ビジョンを実行する共に、その戦略案を作成し、より良い経営につなげることを目的とし、委員会を実施。
委員長:米田明正理事
委員:池田直樹理事、佐藤正隆理事
アドバイザー:湯川 剛理事長
開催月:7月、8月、9月、10月、11月、12月 計6回開催

V. 運営管理

VI. 法人管理部門

総務財務委員会

委員長:櫻井紘哉理事

1. 総務兼法人賛助会担当 櫻井紘哉副会長
2. 財務担当 上野 孝一理事
3. 法務担当 池田 直樹理事
4. 庶務担当委員 吉田 俊朗理事
5. ガバナンス委員 富松 英二常務理事
6. 労務担当 金井 英夫理事
7. 業務統括・事務局 村上 公彦専務理事

開催月:原則として8月を除き毎月開催、計11回。

【事業報告の付属明細書】

2020年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上



第9回定期総会 人数制限とオンライン併用で実施したの様子



コロナウイルス感染症対策を講じての理事会の様子

【事業報告の附属明細書】

2020 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。

以上